

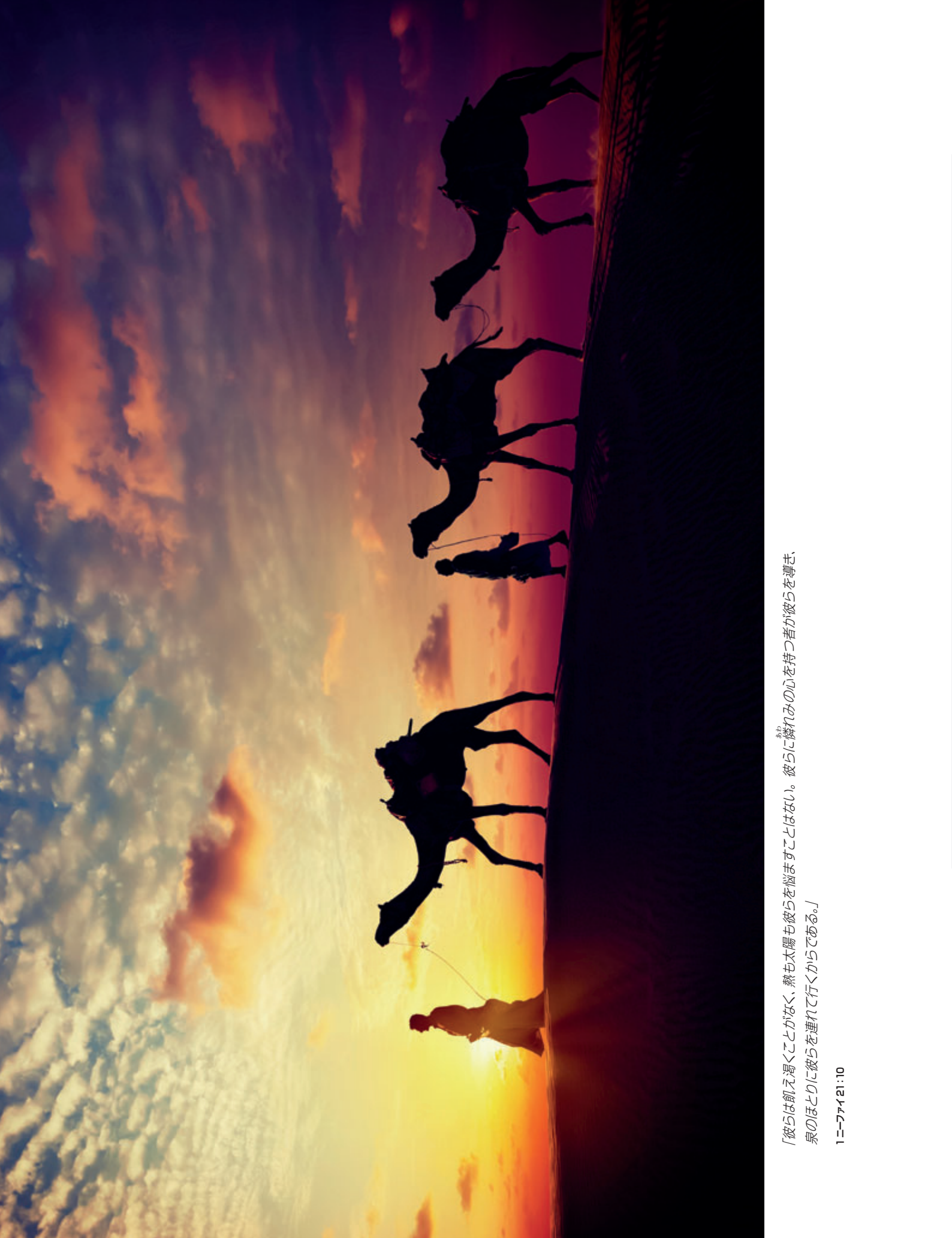
リアホナ



父親はどのように
子供の人生を祝福するか、
4, 10ページ

日本での伝道, 管理ビショップ,
新しい使徒——
ゲーリー・E・スティーブソン長老,
14ページ

モルモン書がどのように
霊的な視力を回復させるか, 20ページ
死後の生活について答えられた
14の質問, 32ページ



「彼らは飢え渴くことがなく、熱も太陽も彼らを悩ますことはない。彼らに隣れ^{あわ}みの心を持つ者が彼らを導き、泉のほとりに彼らを連れて行くからである。」

1ニ-7ア7イ21:10



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
わたしたちの御父、
わたしたちの良き師
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
神殿の儀式と聖約

特集

- 14 ゲーリー・E・
スティーブンソン長老——
理解する心
ロバート・D・ヘイルズ長老
スティーブンソン長老は、聖霊からの
促しや救い主の贖罪の祝福、そして
助けを必要とする人を祝福する教会の
力について理解する心をもって
仕えています。
- 20 目の見えない者の目が見えるようになる
リン・G・ロビンズ長老
モルモン書は、イエス・キリストと栄
えある福音の第二の証人です。

- 26 人生で起こった
7つのすばらしい奇跡
エフレム・スミス
孤児としての貧しい生活から始まり、
宣教師として主に仕えるようになった
わたしの旅は、奇跡というほか
ありませんでした。
- 28 わたしに従ってきなさい——
家庭で基本を教える
アリシア・スタントンと
ナタリー・キャンベル
月ごとの青少年のテーマを家族で
学ぶためのアイデア
- 32 死後の生活についてどんなことが
分かっているのでしょうか
デビッド・A・エドワーズ
わたしたちは、回復された福音の簡
潔で尊い真理のおかげで、死後の
生活についての人々の質問に答える
のを助けることができます。
- 36 心の変化を経験する
エドワード・デュベ長老
わたしたちの娘が病気になったと
き、わたしは、アルマの心が変わっ
たように、わたしの心も変わる必要
があると気づきました。

シリーズ

- 8 わたしたちが信じていること——
わたしたちは、預言者に従うことの
大切さを信じています
- 10 わたしたちの家庭、
わたしたちの家族——
父の愛の模範
匿名
- 12 音楽——来たれ、主のもとに
セオドア・E・カーティスと
ヒュー・W・ドゥーガル
- 40 熟考——万歳！
G・クレーグ・カイザー
- 41 教会での奉仕——わたしの監督下
にある間は、決して！
ブレット・J・ポーター
- 42 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——
証を述べる意味と理由とその方法
スベンサー・W・キンボール大管長

表紙
表紙——
写真/コディー・ベル
表紙裏——
写真/iStock/Thinkstock
裏表紙——
写真/レスリー・ニルソン



46

46 不屈の精神と弟子の務め

デビッド・F・エバンス長老

救い主のまことの弟子となり、わたしたちが永遠に備えるために成し遂げる必要があると天の御父が御存じである、本当の善なる目標を達成するためには、不屈の精神が必要です。

50 安息日の擁護者

サマンサ・マクファティン

選択はわたしたちに委ねられていました。全米チャンピオンを目指して日曜に試合をすることもできましたし、試合を棄権して安息日を聖く守ることもできたのです。

52 宣教師として最も難しいこと

ウエンディー・ウルリヒ

あなたはモルモン書や『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を読みました。でも、見知らぬ人に話しかけたり、拒絶に立ち向かったりする方法を知っていますか。宣教師として絶対に必要となるその他のスキルについても磨き直しましょう。

57 わたしたちのスペース

58 伝道地から —— 魂の叫び

スティーブン・ダグテール

彼は、無愛想で近寄りがたく怖そうに見えました。でも本当は、永遠に関する答えを必要としている一人の人だったのです。

61 教会指導者からの答え ——

宣教師を助ける方法

デビッド・A・ベドナー長老

62 質疑応答

両親は言葉遣いが悪く、騒がしい音楽を聞き、不適切なテレビ番組を見ています。家で、特に安息日に御霊を感じるために、わたしにはどんなことができるでしょうか。

64 良い友人になる方法

デビッド・モラーレス

わたしたちは皆、友人が欲しいと思っています。友人を作り、良い友人になるための幾つかの方法を紹介します。



76

66 しっかりと立つ子供たち —— 正義のために立つ

エイシア・タン

68 ジョーダンの聖文研究仲間

クリスティン・アイダ

ジョーダンは、聖文研究の仲間なしでどうしたらよいか分かりませんでした。でも、すばらしいアイデアがひらめいたのです!

70 神の武具

自分のれいを安全で幸せにたもつために、どんなことができるでしょうか。

72 使徒からの答え ——

バプテスマを受けるとき、わたしたちはどのような聖約を交わすでしょうか

ニール・L・アンダーセン長老

73 わたしたちの ページ

74 モルモン書のヒーロー ——

エービシはせんきょうでした

75 わたしは モルモン書を読むことが できます

76 モルモン書ものがたり ——

いのりの ほうほうを 教える アルマ

79 色をぬりましょう ——

わたしは けいけんになることができます

こんげつごう なか
今月号の中に
かく
隠れている
リアホナを
さが
搜しましょう。
ヒント ——
い
どこで祈ることが
できますか。

52



家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



「わたしたちが信じていること」8 ページ——この記事は、「預言者と使徒たちを支持するときに、わたしたちは彼らが神の僕であるという証を得ます」と教えています。総大会の説教を読んだり聴いたりすることにより、預言者に対する証を強めることができます。家族でモンソン大管長の最近の説教を読み、具体的な勧告を一つ選んで、それに従って生活するとよいでしょう。預言者から求められたことに従って生活するとき、どのように祝福を受けているかに気づくようにしましょう。

「わたしに従ってきなさい——家庭で基本を教える」28 ページ——スペンサー・W・キンボール大管長(1895–1985年)は次のように教えています。「わたし

たちの成功は、個人的にも教会全体としても、家庭で福音を実践することによりの程度忠実に取り組んでいるかによって決ま(ります。))1 か月間、家族で「わたしに従ってきなさい」を研究するとよいでしょう。毎週、選んだテーマのさまざまな側面について研究します。その際、聖典や『わたしの福音を宣べ伝えなさい』や LDS.org、『聖句ガイド』、聖書ビデオ「イエス・キリストの生涯」などの学習補助資料を使うとよいでしょう。毎週、家庭の夕べで、学んだことや感じたことを分かち合うとよいでしょう。考えたことや感じたことを学習帳に書き留めたり、学んだことをソーシャルメディアを通して友人に伝えたりするとよいでしょう。

インターネットで得られる追加情報

languages.lds.org で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。靈感あふれるメッセージや家庭の夕べのアイデア、友達や家族と分かち合える内容を見つけるために、Facebook.com/liahona.magazine (英語・スペイン語・ポルトガル語で掲載) をご覧ください。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

証, 80	謙遜, 52	態度, 52
アロン神権, 41	従順, 8, 28, 70	父親の務め, 4, 10
安息日, 45, 50, 62	贖罪, 36	父なる神, 4
イエス・キリスト, 12, 28, 40	自立, 28	弟子の務め, 46
祈り, 12, 58, 61, 66, 76	信仰, 36, 46, 75	伝道活動, 52, 58, 61, 74
教え, 28, 43	神殿, 44, 73	バプテスマ, 72, 73
改心, 36	神殿の業, 7	不屈の精神, 46
家族, 10, 28, 36, 43, 44, 62	救いの計画, 32, 58	奉仕, 41
儀式, 7, 28	聖餐, 40	目標, 46
奇跡, 26	聖書, 20	モルモン書, 20, 57, 68, 74, 75
敬虔, 79	青少年, 41	友情, 64
結婚, 28	聖約, 7, 28, 72	預言者, 8, 42, 44



大管長会第二顧問
ディーター・F・
ウークトドルフ管長

わたしたちの御父， わたしたちの良き師

あなたはかつて部品の入った箱を開けて組立説明書を取り出し、「これでは全然分からない」と思ったことはありませんか。

強い意欲と内に秘めた自信があるにもかかわらず、部品を取り出して、「これは何のためにあるのだろうか?」「どのように取り付けるのだろうか?」と考え込むことが時折あります。

箱を見て、「組み立て式——対象年齢8歳以上」という注意書きがあることに気づくと、いら立ちが募ります。それでもどうすればよいか分からないため、自信や自尊心がくじかれます。

福音についても似たような経験をすることが時折あります。福音のある部分を見て、頭をかきながら、何のためにその部分があるのだろうかと思うことがあるかもしれません。あるいは、別の部分を調べ、よく理解しようと一生懸命に努力した後でさえ、なぜその部分が含まれているのかまったく分からないと思うかもしれません。

天の御父はわたしたちの良き師であられる

幸いにも、わたしたちが生活を組み立てて最善の自分になれるように、天の御父はすばらしい説明書を与えてくださいました。それらの説明書は、わたしたちの年齢や状況に関わりなく、全員を対象としています。御父は福音とイエス・キリストの教会を与えてくださいました。贖いの計画、救いの計画、すわなち幸福の計画を与えてくださいました。人生のあらゆる不安や問題の中にわたしたちを独りにして、こう言われたものではありません。「さあ、行きなさい。頑張りなさい。自分で何とかしなさい。」

忍耐強くあり、謙遜な心で先入観を抱かずに見れば、気づくことがあります。それは、わたしたちが神からの多岐にわたる説明書をもっとよく理解して生涯を幸福に過ごせるように、神は次のような多くの手段を与えてくださっているということです。

- 貴重な聖霊の賜物。わたしたちが神の言葉を研究し、自分の思いと行いを神の言葉に合わせようと努めるとき、聖霊はわたしたちの個人的な天からの教師となってくださいます。
- 信仰の祈りと誠心誠意の嘆願によって週7日、一日24時間いつでも神に近づく機会。
- 現代の使徒と預言者。使徒と預言者はわたしたちの時代に神の言葉を明らかにします。また、地上と天の両方でつなぎ、結ぶ権能を持っています。
- 回復された神の教会。教会は信仰を持つ人々の組織であり、信仰を持つ人々は、恐れおののき、この上ない喜びをもって自分の救いの達成に努めながら、互いに助け合います。¹
- 聖典、すなわちわたしたちのために書き留められた神の御言葉。
- わたしたちが弟子の道を歩むのに助けとなる現代の科学技術を用いた多種多様のツール。これらの驚くべきツールの多くは、LDS.orgで見ることができます。

天の御父がこのように多くの助けを与えてくださっているのは、なぜでしょうか。それは、わたしたちを愛しておられるからです。また神御自身が述べておられるように、「人の



不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である」からです。²

言い換えれば、天の御父はわたしたちの神です。そして、神はわたしたちにとって良き師であります。

天の御父は、他の誰よりも御自分の子供たちに必要なものを御存じです。絶えずわたしたちを助けることが御父の業と栄光であり、神のみもとに戻る道を歩んでいるわたしたちの助けになるように、この世におけるすばらしいリソース、そして霊的なすばらしいリソースを与えてくださいます。

全ての父親は良き師である

世界の一部の地域では、6月に父親が家族と社会からたたえられます。親を尊び、敬うことは常に良いことです。父親は家族のために多くの善い

ことを行い、称賛に値する特質をたくさん備えています。父親が子供たちの人生において果たす最も重要な役割を二つ挙げるとすれば、それは良い模範者であることと良き師であることです。父親は、言葉よりも行いによって、何が善くて何が悪いかを子供たちに教えます。彼らに説明書をただ単に渡して、彼らが自分たちで何とか

するように期待することよりも、さらに多くのことを行動で示します。

父親は良き師として自分の大切な子供たちを導き、良い模範によって正直な人生を送る方法を示します。自分の子供たちを放ってはおかず、救助に駆けつけ、彼らがつまずくときにはいつも助けて立ち上がらせます。また時には、そうするのが賢明である

このメッセージから教える

最初に、あなたが教える人たちに、天の御父から導きを与えられたときのことを考えてもらおうとよいでしょう。その後、そのときと、この世の父親から導きを与えられたと感じたときの類似点について考えてもらいます。どのような方法で導かれたか、その類似点を書き留めてもらいます。書き留めたことを手本として、他の人々に対してもっと良い模範になるように努めるよう彼らに勧めるとよいでしょう。

場合、苦勞させることが子供に学ばせる最善の方法であると
感じれば、子供が苦勞するのをそのままにしておきます。

わたしたちは皆、良き師である

この世の父親は自分の子供たちに対してこのように行い
ますが、年齢や場所、状況に関わりなく、わたしたちは良き
師としての精神を、神の全ての子供たちに示す必要があり
ます。覚えておいてください。神の子供たちはわたしたちの
兄弟姉妹です。わたしたちは皆、同じ永遠の家族に属して
います。

この意味で、わたしたちは皆、良き師になりましょう。最高
の自分になれるように、熱心に手を差し伸べて互いに助け
合うようにしましょう。わたしたちは神の子供ですから、神の

ようになる潜在能力が確かにあります。神と^{ほらから}同胞を愛し、
神の戒めを守り、キリストの模範に従うことは、天の両親の
もとに戻る、まっすぐな、狭い、喜びの道です。

全宇宙の神がわたしたちの良き師としてわたしたちのこと
をととても気にかけてくださっているとすれば、おそらくわたし
たちも、肌の色や人種、社会経済、状況、言語、宗教に関わり
なく、同胞に手を差し伸べることができることでしょう。靈感
に導かれる良き師となり、他の人々、すなわち、自分の子供
だけでなく、全世界の神の全ての子供たちの人生に祝福を
もたらしましょう。■

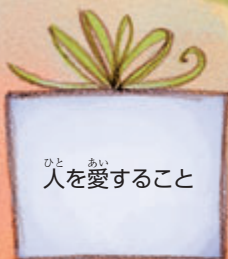
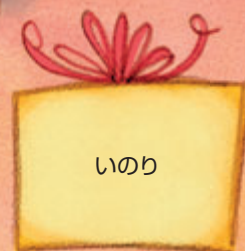
注

1. 使徒 13:52;ピリピ 2:12 参照
2. モーセ 1:39

こども

天のお父様の助け

天のお父様はわたしたちを愛しておられるので、わたしたちを助け
るためにたくさんの方法や賜物を与えてくださっています。賜物
と合う絵を下から選んでください。あなた自身の生活や他の人を祝福
するために、これらの賜物をどのように
つか
使えるでしょうか。



よく祈りながらこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるようお願いしてください。
「家族——世界への宣言」を理解することは、神を信じるあなたの信仰をどのように増し、
家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹をどのように祝福するでしょうか。
詳しくは www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn をご覧ください。

神殿の 儀式と聖約

救いと昇栄に必要なすべての儀式には神と交わす聖約が伴います。「聖約を交わして守るということは、自分を天の御父とイエス・キリストに結びつけることを選ぶという意味です」と中央扶助協会会長のリンダ・K・バートン姉妹は述べています。¹

十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は次のように語っています。「主は、『……儀式によって神性の力が現れる』と言われました。

バプテスマを受け、聖霊を受け、定期的に聖餐を頂く全てのふさわしい人には、神からの特別な祝福が用意されています。』²

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はこう語っています。「神殿に参入するとき、男性も女性も同じ力を受けます。

……すべての男女は、生活の中でこの力から助けを得ることができます。主と神聖な聖約を交わし、そ



これらの聖約を尊ぶ人は皆、個人の啓示と天使の働きの祝福を受け、神と親しく交わり、完全な福音を受け、そして最終的には、イエス・キリストとともに御父の持つておられる全ての相続人となるのです。』³

その他の聖句

1 ニーファイ 14 : 14 ; 教義と聖約 25 : 13 ; 97 : 8 ; 109 : 22

注

1. リンダ・K・バートン「聖約を守ることから生じる力と喜びと愛」『リアホナ』2013年11月号, 111
2. ニール・L・アンダーセン「神権に宿る力」『リアホナ』2013年11月号, 92 参照
3. M・ラッセル・バラード「主の業における男性と女性」『リアホナ』2014年4月号, 48 - 49 参照
4. D・トッド・クリストファーソン「聖約の力」『リアホナ』2009年5月号, 19 - 20 参照



信仰・家族・扶助

現代の人々の経験から

2007年、ペルーで大地震が発生して4日後、七十人のマークス・B・ナッシュ長老はベンセスラオ・コンデ支部会長とパメラ夫人に会いました。「ナッシュ長老が子供たちはどうしているか尋ねると、彼女はほほえんで、神の恵みのおかげで皆無事だと答えました。ナッシュ長老は、家はどうかと尋ねました。

彼女はただ『なくなりました』と答えました。

……ナッシュ長老は『それでも、姉妹はほほえんでいますね』と言いました。

するとコンデ姉妹はこう答えました。『ええ、お祈りをしたので、平安なのです。必要なものは全部あるし、夫もわたしも子供たちもここにいるし、神殿で結び固められています。このすばらしい教会があり、主がおられます。主の助けがあれば、またやり直せます。』……

神と聖約を交わし守ることで、苦難の中でほほえむ力や、試練を勝利に変える力が与えられます。これはどうしてでしょうか。……

……その源が神だからです。神との聖約を通してその力を得ることができます。』⁴

考えてみましょう

神殿の儀式や聖約はどのような方法でわたしたちを強め、力を与えてくれるのでしょうか。

わたしたちは、預言者に従うことの大切さを信じています

イエス・キリストが地上で教導の業を行っておられたときに設立された初期の教会と同様に、今日の教会も「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石」です（エペソ2：20）。この教会には12人の使徒がおり、また大管長とその顧問もいます。彼らは、預言者、聖見者、啓示者です。イエス・キリストについて証し、全世界に主の福音を宣べ伝えるために召されています。

救い主は預言者たちを選び、多くの経験を通して彼らに教会を導く備えをさせられます。教会員が「預言者」と言うときは、大管長を指しています。大管長は教会全体のために啓示を受けることのできる、地上でただ一人の人です。

大管長は主に代わって語る（教義と聖約1：38参照）ため、わたしたちは彼の勧告の中から自分が従いたい部分だけをえり好みすることは賢明ではありません。そうではなく、わたしたちは預言者の勧告と招きを、「忍耐と信仰を尽くして」あたかもイエス・キリストから直接に受けたものであるかのようにみなします（教義と聖約21：5）。

預言者和其他の使徒たちの言葉に耳を傾けて従うことを選ぶなら、わたしたちはイエス・キリストのような者になろうとする努力に対して祝福を受けますし、また世の不安定さや欺きから守られます（エペソ4：11－14参照）。

例えば、預言者と使徒たちが教えてくれる不変の標準に従って生活することにより、道徳や価値観が移り変わ

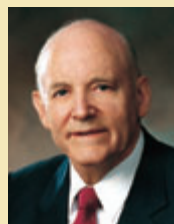
る世にあって霊的な安全を見いだすことができます。また、借金を避け、貯蓄をし、食糧貯蔵を行うようにという預言者の勧告に従うことによって物質的な安全も見いだします。

大管長と使徒たちは、主の業のために自分の人生をささげ、キリストについて証するために世界を旅し、聖徒を教え、世界規模の教会の運営を監督します。主は彼らとその家族を支え、祝福されます。わたしたちも、彼らのために祈り、勧告に従い、彼らの教えることが真実であるという聖霊の確認を求めることにより、彼らを支持します。

預言者と使徒たちを支持するときに、わたしたちは彼らが神の僕であるという証を得ます。彼らは完全ではありませんが、天の御父は彼らがわたしたちを誤った方向に導くことをお許しになりません（申命18：18－20参照）。■

預言者に従うことについてさらに学ぶには、十二使徒定員会会長のラッセル・M・ネルソン会長の説教「預言者を支持する」（『リアホナ』2014年11月号、74－76）を読むとよいでしょう。

生ける預言者を通して導きを得る



「神は再び語られ、今日、生ける預言者を通して御自分の全ての子供たちに引き続き導きを与えておられます。約束されているように、

神は常に御自分の僕たちとともにいて、世界中で御自分の教会の諸事を導いておられることをわたしたちは宣言します。」

「歴代大管長の教え——
ハワード・W・ハンター」104

生ける預言者を通して
わたしたちに
次のような祝福が
与えられてきました。



預言者ジョセフ・スミス
(1805 - 1844 年) は
「神の賜物と力によって」
モルモン書を翻訳しました
(モルモン書序文参照)。
モルモン書は 1830 年に
出版されて以来、
何千万という人々の生活に
祝福をもたらしてきました。



1936 年、大恐慌のさなかに、
ヒーバー・J・グラント大管長 (1856 - 1945 年) は、
後に教会の福祉プログラムとなるものを発表しました。
今日、このプログラムは
世界中のあらゆる宗派の人たちの助けとなっています。



1915 年、ジョセフ・F・スミス大管長
(1838 - 1918 年) とその顧問は、
家庭の夕べを始めるように
教会員に勧めました。家族は今も、
大管長会が約束した大きな祝福を
刈り取っています。



1998 年 4 月、
儀式が執行されていた教会の
神殿数が 51 のときに、
ゴードン・B・ヒンクレー大管長
(1910 - 2008 年) は、
たくさんの小規模神殿を
建設する計画を発表しました。
これらの神殿は現在、
世界中のさらに多くの教会員に
祝福をもたらしています。



2012 年、トーマス・S・
モンソン大管長は、
宣教師として
奉仕する人の年齢が、
男性は 18 歳に、
女性は 19 歳に
それぞれ引き下げられる
と発表しました。
その結果、
宣教師の数が増し、
何万もの家族と宣教師が
祝福を受けています。

父の愛の模範

匿名

父はわたしに、道をそれた子供たちをどのように愛せばよいかを教えてくださいました。

わたしは、二人の友達から誘われてセミナーに行ったことをきっかけに、教会に入りました。両親は、わたしがバプテスマを受けるときも、伝道に出るときも、神殿結婚をするときも、わたしの選びを尊重してくれました。でも、わたしたち夫婦が結び固めを受ける間、両親はユタ州プロボ神殿のロビーで優しく待っていてくれたのを知ったときに、心に痛みを感じたのを覚えています。おそらく、両親も同じ痛みを感じたのではないかと思います。

やがてわたしたちには4人の子供が生まれました。聖約の子として生まれた彼ら一人一人が、わたしたち夫婦に結び固められていると知ったときに感じた喜びを今も覚えています。子供たちは、両親にとっては最初の孫でした。わたしの両親やきょうだいは教会には入りませんでした。子供たちとはとても親しい関係を築いてくれました。長年、近くに住んでいた両親は子供たちが学校や青少年のスポーツ活動に参加するのを見に来ることができました。両親は、それぞれの子供たちのバプテスマ会に出席してくれました。

子供たちが10代になる頃に、わたしの仕事の関係で家族全員で別の州に移らなければならなくなりました。遠く離れてからも、両親は訪問してくれたり、頻繁に手紙を送ってくれたりして、子供たちとの親しい関係を引き続き大切にしてくれました。

両親が中高年になると、母は若年性アルツハイマー病を患い、24時間介護が必要になりましたが、父は献身的にその役割を果たしました。晩年、このような状況にあっても、父は毎週、時によっては毎日、電話や手紙で連絡をくれました。わたしは、常に



その間の数年間、
両親は子供たちをよく訪れ、
手紙を書いて親しい関係を保ってくれました。



両親と親しい関係を保ち続けましたが、父が亡くなる前の10年は特に距離が縮まりました。わたしたちきょうだいは、成長とともに関心も選んだ宗教も異なるようになりましたが、父が他のきょうだい3人とも同じように良い関係を築いていることにそのとき気づきました。

晩年、両親とわたしの家族は、アメリカの東海岸と西海岸に離れて暮らしていました。母のアルツハイマーの症状が進行し、父にとっては飛行機での長旅の間、母の世話をするのが難しい状況にありながらも、2度もアメリカ横断の旅をしてくれました。

ちょうどこの時期、わたしの子供たち4人全員が、一人、また一人と、教会に行かないという決心をしたのです。2人は、教会の会員記録から自分の名前を抹消しました。わたしたち夫婦にとって、これが最も大きな人生の試練でしたが、わたしの子供たちの選びについて、わたしと同じように心を痛め、悩んでもくれました。父自身は実は宗教心の厚い人で、わたしと一緒に子供たちのために祈ってもくれました。

2005年、がんの診断を受けて父が亡くなり、その3年後、母が亡くなりました。二人の死後、妻とわたしは二人の身代わりとして神殿の儀式を受け、喜びを分かち合いました。

成人した子供たちの何人かは結婚して伴侶と子供たちがいますが、末日聖徒ではない彼らとどうしたら最良の関係を保てるのかを知るために、わたしは長い間祈ってきました。子供たち4人全員と心は近くあり、彼らがわたしたちに愛のこもった連絡をよくしてくてくれることに感謝しています。

成人した子供たちに対して、おそらく残りの生涯ずっと、どのような態度をとればよいかについて、非常にはっ

きりとした答えを受けました。父がわたしに対してしてくれたことを、子供たちにもする必要があると分かったのです。父とわたしは、生き方も宗教的な考えも異なっていましたが、それでも父は、父親として、友達として、わたしに寄り添おうと決心してくれていました。一方、わたしは子供たちが異なった生き方や信仰を選ぶのを見て心を痛めていました。父は信仰の異なる子供たちにどのように接すればよいかを教えてくださいました。そして救い主ならそうされるように、完全に愛するべきだということを教えてくださいました。そんな父の模範に従わなければならないと気づきました。■

来たれ、主のもとに

思いを込めて ♩ = 80-92

詞：セオドア・E・カーティス
曲：ヒュー・W・ドゥーガル

1. よ る の せ い じゃ く に
2. つ よ き の ぞ み も ち
3. い か な る く な ん が

ひ と り た た す み て
み ち ち に た ね が え て
わ れ に せ ま る と も

ほ し あ か り の も と
き せ き か み え ぬ と も
しゅ は か た き と り で

か み に こ こ ろ む けん
こ こ ろ は み た さ れん
て き ふ せ ぎ た も う



い の り て う け た る
あ ら し あ れ く と い
き た れ しゅ の も と に

こ え な き こ た え は
た す け は な た く と も
つ か れ し も の ら よ

お も に を と り さ り
しゅ に た よ り し と き
こ こ ろ し ず む と き

よ ろ こ び み た さ ん
あ ら し は す ぎ さ らん
き た れ しゅ の も と に

画像 © ISTOCK/THINKSTOCK

ゲーリー・E・ スティーブソン長老 —理解する心

十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老



ユタ州ローガン神殿が近くにある(反対側のページ参照)、合衆国ユタ州キャッシュ郡で育ったゲーリー・スティーブソン長老は、両親の教えから多くの教訓を学びました。父親からは聖霊に従うことを学び、母親のことを思うと、正しいことを選ぶ意欲が湧いてきたのです。十代のときに神権定員会のフェローシップと奉仕の大切さが分かるようになり、これは十二使徒定員会で奉仕する備えとなりました。

ゲーリー・スティーブソン長老は11歳のとき、父親に連れられてハイキングに行きました。長老は、そのときのことをこう言っています。「わたしは父の見ている前で岩から岩へと飛び移りました。大きな岩に登れば、下を見下ろせると思ったのです。ところが、岩のてっぺんに登ろうとしたところ、父にベルトをつかまれて引きずり下ろされました。

『どうしたの?』と尋ねると、父はこう答えました。『あの岩に登っちゃだめだ。この道を歩き続けよう。』しばらくして、ずっと高い所から見下ろすと、先ほどの岩の上でガラガラヘビが日なたぼっこをしているのが見えたのです。

『だから岩から引きずり下ろしたんだよ』と父は説明しました。

その後車で帰る途中、『ヘビがあそこにいるって、どうして分かったの?』と尋ねると、父は言いました。『聖霊について話してもいいかな。』父は、わたしが聞いてくるのを待っていたのです。その機会を利用して、わたしたちの生活の中で聖霊が果たすことのおおきくなる、守り、慰め、証する者としての働きについて教えてくれました。『あの場合』と父は切り出しました。『聖霊はわたしを通して君を守ろうとされたんだ。君を引きずり下ろせと警告することによってね。』

この経験からスティーブソン長老は、簡単



なことであっても、聖霊から促しを受けたなら、それに従って行動しなければならないことを、理解することができました。それは、父から学んだ数多くの教訓の一つでした。

すばらしい母親、すばらしい指導者

スティーブソン長老によると、母親は純粋な善良さの見本でした。「母が期待していると思うと、やる気が湧いてきました。」ほとんど何をするにしても、「母をがっかりさせない」ことが基準でした。

家庭の夕べや家族の活動、家族の集いを通して、両親は二人して、福音の原則をわたしたちの心に植え付けました。「両親は、福音の教えが錨のように家庭に深く根を下ろすようにしてくれました。福音の教えは、わたしたちの



生活の土台でした。』

スティーブソン長老に大きな影響を与えた指導者は他にもいました。「中央幹部になったばかりの頃に受けた訓練で、大管長会のヘンリー・B・アイリング管長から、自分の人生に良い影響を与えた20人の名前を挙げるように言われたのをよく覚えています。このような人の名前を20人も挙げるのは、誰にとってもためになることだと思います。とりわけ、若い頃自分を助けてくれた全ての善良な人たちのことを思うと、心が奮い立ちます。

家族と友人に支えられて

ゲーリー・エバン・スティーブソンは、1955年8月6日に生まれ、アメリカ合衆国のユタ州ローガンで育ちました。両親のエバン・ホール・スティーブソンとジーン・ホール・スティーブソン夫妻には、4人の子供がいました。ゲーリーは2番目の子供で、長男でした。

「きょうだいとは非常に仲がよく、姉のデビーからは正しいことをするよう期待され、弟のダグと妹のメリリーからは模範となるよう期待されていました。家族は皆、義にかなった生活を送り、教会の活動に参加する責任が自分にはあると



感じていました。」親族も、高い目標を掲げていました。「例えば、一番年上のいとこは、伝道に出るとき、2ドル札にサインをして、それを次に伝道に出る準備をしているいところに渡しました。この2ドル札は全世界に伝道に出ていく計16人のいとこに次々に手渡され、自分たちは一致団結して主に仕えているのだということを思い出させる象徴となったのです。」

神権者の友人も、スティーブソン長老に良い影響を与えました。長老はこう言っています。「わたしは少年の頃から、日曜日の教会だけでなく、地域社会や学校でも、定員会とつながっていることがどういうことなのかを学びました。定員会の活動を通して、わたしは自分の真の姿を知り、仲間



仰、行い、その他の福音の原則に似ていることが分かりました。祝福というものは、自分にできることを全て行った後に、初めて授かるものなのです。」

伝道が終わると、スティーブソン長老は教会歴史に情熱を注ぐようになり、モルモン書と教義と聖約を研究し、歴史記録や家族歴史を調べました。特に興味を引かれたのは、ジョセフ・スミスとその家族、ホイットマー家、オリバー・カウドリ、そしてマーティン・ハリスでした。モルモン書のさまざまな版の翻訳や出版について調べました。

このたびもまた、信仰と努力が切り離せないものであることを知りました。「福音に関する疑問の中には、すぐに答えられるものはない」というアドバイスを与えています。「主はわたしたちに読み、研究し、考え、祈るよう期待しておられます。信仰と、義にかなった望みをもってこれを行うならば、やがて素晴らしい証が得られます。」

スティーブソン長老は、長年にわたって、特に、青少年対象の日曜学校、福音の教義クラス、若い男性のクラスを教えるよう召されたときに、祝福を感じてきました。これらの召しを果たす中で、聖文が真実であるという、長年にわたる研究で育んできた深い思いや確信について証することができました。

ユタ州立大学に復学したスティーブソン長老は、経営管理とマーケティングの研究を再開しました。図書館に長時間こもりました。「入館するたびに目に入る言葉がありました。『あなたが何を得るにしても、悟りを得よ。』」

〔箴言4:7〕この聖句はスティーブソン長老の心に刻み込まれ、後にブリガム・ヤング大学で行われたディボーションでは、これをテーマにした説教をしています。

その説教の中で、スティーブソン長老は、「このような悟りは、**研究と祈りの相乗効果**によって得られる」と説明しています。「主を信じて頼るとき、主はわたしたちの心により深い

意識と兄弟愛、奉仕している実感を持つことができるようになったのです。」特によく記憶しているのは、定員会の会員に付き添って、ワードのある姉妹から断食献金を集めたときのことです。この姉妹は、外出ができず、目が不自由で、収入もあまりありませんでした。「そんな状況にもかかわらず、この姉妹は断食献金として常に5セント硬貨や10セント硬貨をささげました。」

努力を要する賜物

高校を卒業し、しばらくの間ユタ州立大学に通ったスティーブソン長老は、日本福岡伝道部での伝道に召されました。「日本語を習得できるかどうか不安でした。宣教師訓練センターにいる間も、その不安は募る一方でした。しかし、6週間ほどたった頃、熱烈に祈り、一生懸命勉強した結果、主の祝福によって日本語が習得できるようになるという安らかな気持ちを感じたのです。とは言え、その後も努力を怠ることはありませんでした。この経験から、異言の賜物は信



スティーブソン長老は日本で専任宣教師として奉仕し(右)、アジアとその国民を愛するようになりました。伝道から帰還すると、将来の妻となる姉妹に出会いました。インスティテュートで同じクラスに出席していた姉妹です。二人は、アイダホフォールズ神殿で結婚し、4人の息子、クレーグ、ブライアン、プレット、カイルの親となりました。「わたしの人生の太陽」と呼ぶ妻について話すとき、スティーブソン長老は目を輝かせます。



悟りを授けてくださいます。」¹

インスティテュートでの恋

インスティテュートの旧約聖書クラスで、スティーブソン長老は、当時、カリフォルニアからアイダホに引っ越してユタ州立大学の学生となっていたリサ・ジーン・ヒグリーに出会いました。「ロールプレイングで教師が、リサにはエバの役、わたしにはエバを誘惑するサタンの役を演じるよう命じたのです。その結果、わたしとデートしても大丈夫だと納得してもらうまで、しばらく時間がかかりました」と、当時のことをにこやかに話します。二人はちょうど1年間交際した後、1979年、アイダホ州アイダホフォールズ神殿で結婚しました。

リサについて話すとき、スティーブソン長老は目を輝かせます。リサを「わたしの人生の太陽」と呼んでいるのです。² スティーブソン姉妹は家庭科教育の学位を取得して卒業し、結婚して間もない頃は学校で教師として働きましたし、学校や民間および地域の委員会、組織、その他の取り組みに常に時間と才能をささげていました。しかし、スティーブソン長老は、主婦としての賜物こそ、スティーブソン姉妹の最も神聖な特質の一つだと考えています。「彼女には、福音を中心とした家庭、すなわち御霊が宿る安全で居心地のよい環境を作り出す能力があるのです。この能力は、真の喜びは人に奉仕することから生まれることを深く理解していることと相まって、夫や家族、周囲の多くの人々の生活に祝福を与えてきました。」

スティーブソン長老と姉妹には4人の子供がいます。「わたしたちは長年にわたって、何でも家族ぐるみで楽しく行ってきました」とスティーブソン長老は言います。「息子たちはバスケットボールやフットボール、野球、テニスをしました。四輪バギーやスノーモービル、スキー、スノーボードその他のさまざまなウォータースポーツなどの野外活動を、家族全員が大好きです。しかし、リサは文化的な面でも息子たちに影響を及ぼしました。音楽や絵画を楽しむ心を育んだのです。それに、リサは子供たちに『馬力』をつけさせる必要がありました。周囲の人々に、わたしたち家族から奉仕の贈り物をするためです。」

事業の発展

スティーブソン長老の事業がうまく展開していったのは、長老がアジアの人々を愛していたからでした。伝道から帰還したとき、何人かの友人とともに、ギフト用アクセサリーをアジアから輸入する仕事を始めたのです。これがフィット



ネス用品の販売へと発展し、30年の歳月を経て、この小さな事業は、2500人以上の従業員を擁する優良企業に成長しました。

社員の一人は、実業家としてのスティーブソン長老の姿勢を示す出来事を振り返って次のように語っています。「事業を進めるうえでの難しい決定を下すために話し合っていたときのことです。わたしは必ず法にのっとって行わなければならないと言ったのですが、彼から、法にのっとったことを行うだけでなく、正しいことを行わなければならないと言われました。」

「良い原則を取り入れると、事業のためになる」とは、スティーブソン長老の言葉です。「高潔、勤勉、哀れみ、敬意をもって人と接すること、同時に報告責任を求めること、こういったことは日曜日にだけ話したり、実践したりする教えではありません。毎日実践すべきことなのです。」

事業の発展とともに、仕事にかなり時間を取られるようになっていきました。「わたしは若くしてビショップとなり、幼い子供を抱え、それに加えて、アジアへ毎年何度も出張していました。父がやって来て、こう言いました。『君を見ていると、家族と一緒にいても、真の意味で一緒にいるとは言えないね。つまり、仕事をしていても完全に仕事に集中しているわけではなく、ビショップの役割を果たしていても、仕事や家族のことが気になっているのではないのかな。もっとバランスの取れた生活をしないとね。』」

この助言には、非常に大きな重みがありました。スティー



ブンソン長老は言います。「家族、職業、教会の召し、この3つのバランスを保つこと、またそれだけでなく、自分自身を大切にしなければならぬことが分かりました。」

繰り返される奉仕の召し

スティーブンソン長老は、ある評判の高い業界の指導者から、こんな助言を受けたことがあります。「学び、儲け、奉仕する。」2004年、この助言の「奉仕」の部分^{もう}が試されました。スティーブンソン長老と、長年の共同経営者であるスコット・ワターソンが、同時に伝道部長の責任に召されたのです。二人は、一時的に業務を離れなければならない理由を、多方面の出資者や顧客に説明する必要があると感じました。一人一人と会って話をしました。

「わたしたちの召しについて説明し、3年間奉仕するものの、教会から報酬は受けないことについて話す、善いことだと、誰もが敬意を払ってくれました。」彼らは信頼の置ける経営陣に事業を任せ、その結果、事業は繁栄しました。

スティーブンソン長老は、日本名古屋伝道部の伝道部長を務めるうちに、アジアに対する愛がさらに深まっていくのを感じました。

「日本はわたしの第2の故郷に

なりました」と言っています。リサ姉妹は地元の文化を取り入れ、周囲の人々や宣教師、教会員に手を差し伸べ、連れてきた二人の息子を育てました。その姿を見て、妻への愛も深まりました。周囲の人たちと友達になろうとするリサ姉妹の努力の結果とも言える改宗者のバプテスマも、数件あったのです。

伝道部長の召しを終えて帰還してから7か月しかたっていない2008年、スティーブンソン長老は七十人第一定員会で奉仕するよう召されました。

「愕然とし、謙遜になりました。こう考えたのです。『わたしよりもはるかに立派な働き手が他にもたくさんいる。』しかし、以前に、長老定員会会長、高等評議員、ビショップ、ステーク会長会顧問を務めたときのこと、依頼されたことを行うには経験不足だと感じたときのことを考えました。召される前の段階では、ふさわしくないとでも、与えられたその召しが、きっかけとなって神から助けを受け、ふさわしくなるということを学んできました。

わたしの好きな聖文の一つが、召されたときになすべき二つのことを教えています。第1は、『忠実であ[る]』ということ、第2は、任命された職において務めるということです(教義と聖約81:5参照)。わたしにとって、これは

信仰を示してなすべきことを知り、召しを尊んで大いなるものとするために自分のできることを全て行うことを意味します。これを行うならば、周囲の人々を祝福できる強さとふさわしさを、主はわたしたちに与えてくださいます。」

再びアジアへ

七十人となったスティーブンソン長老は、アジア北地域の地域会長会顧問、その後、地域会長として

七十人を務めていた頃も、続いて管理ビショップになってからも、スティーブンソン長老は、桜の花のように穏やかな哀れみを示すことで知られていました(桜の花は日本の国花)。「救い主の愛という癒やしの香油」を注ぐために、国内であれ遠く離れた地域であれ、人々に手を差し伸べました。使徒となってもスティーブンソン長老は、「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め[る]」ために、これからも続けて貧しい人と助けの必要な人に手を差し伸べていくことでしよう(教義と聖約81:5)。





割り当てを受けました。

2011年、地震と津波が日本に大きな打撃を与えました。マグニチュード9.0の地震は、津波を引き起こし、死者2万人、行方不明者数千人、倒壊家屋55万戸を出したのです。

スティーブソン長老は被災地を何度も訪れました。当時のことをこう語っています。「人々と会って話すと、さまざまな感情が湧き上がりました。わたしたちは悲劇を見ましたし、人や物が失われていくのも見ましたが、それと同時に、人々が持つ希望と、復興していく姿も目にしました。救い主の愛という癒やしの香油が注がれるのを見て胸を打たれたことが、何度もあります。」

それに加えて、助けの必要な人たちに教会が手を差し伸べる様子をその目で見ました。「災害に対処し、援助計画を立てるのは、イエス・キリストの教会が神から授かった、貧しい人と助けの必要な人の世話をするという責任を果たしていることの表れでした。」困っている人のために奉仕し、他の人が同様に奉仕する姿を見るのは、神聖な特権だと長老は言っています。「わたしたちは人間は善き者だということを知りました。」

ビショップの受け継ぎ

2012年、管理ビショップに召されたとき、哀れみの意味が、かつてないほど深く、スティーブソン長老の心に突き刺さりました。その召しにあつて、スティーブソン長老は、「世界中で最も生活水準の低い地域、最も貧しい地域、最も抑圧された地域」³に住む天の御父の子供たちに人道支援を提供するだけでなく、末日聖徒とその他の人々に福祉援助や緊急時の援助を提供する、広範囲にわたる教会ネットワークを管理したのです。

ビショップの役割は、スティーブソン長老にとって特別な意味を持っています。長老はこう言っています。「わたしが12歳のとき、父はビショップに召されました。わたしたちのワードには夫を亡くした姉妹がたくさんいて、父はそのような姉妹を助けに行くときに、よくわたしを連れて行きました。

父に頼まれて、ごみを出したり、家の掃除をしたり、友人と一緒に落ち葉を掃いたり、雪かきをしたりしたものです。帰るときにはいつも心に良い気持ちを感じました。夫を亡くした姉妹たちを訪問することによって、ビショップの役割の一つは、一人一人の人に仕えることだということが分かりました。教会のビショップたちは、実に、わたしのヒーローです。」

預言者の約束

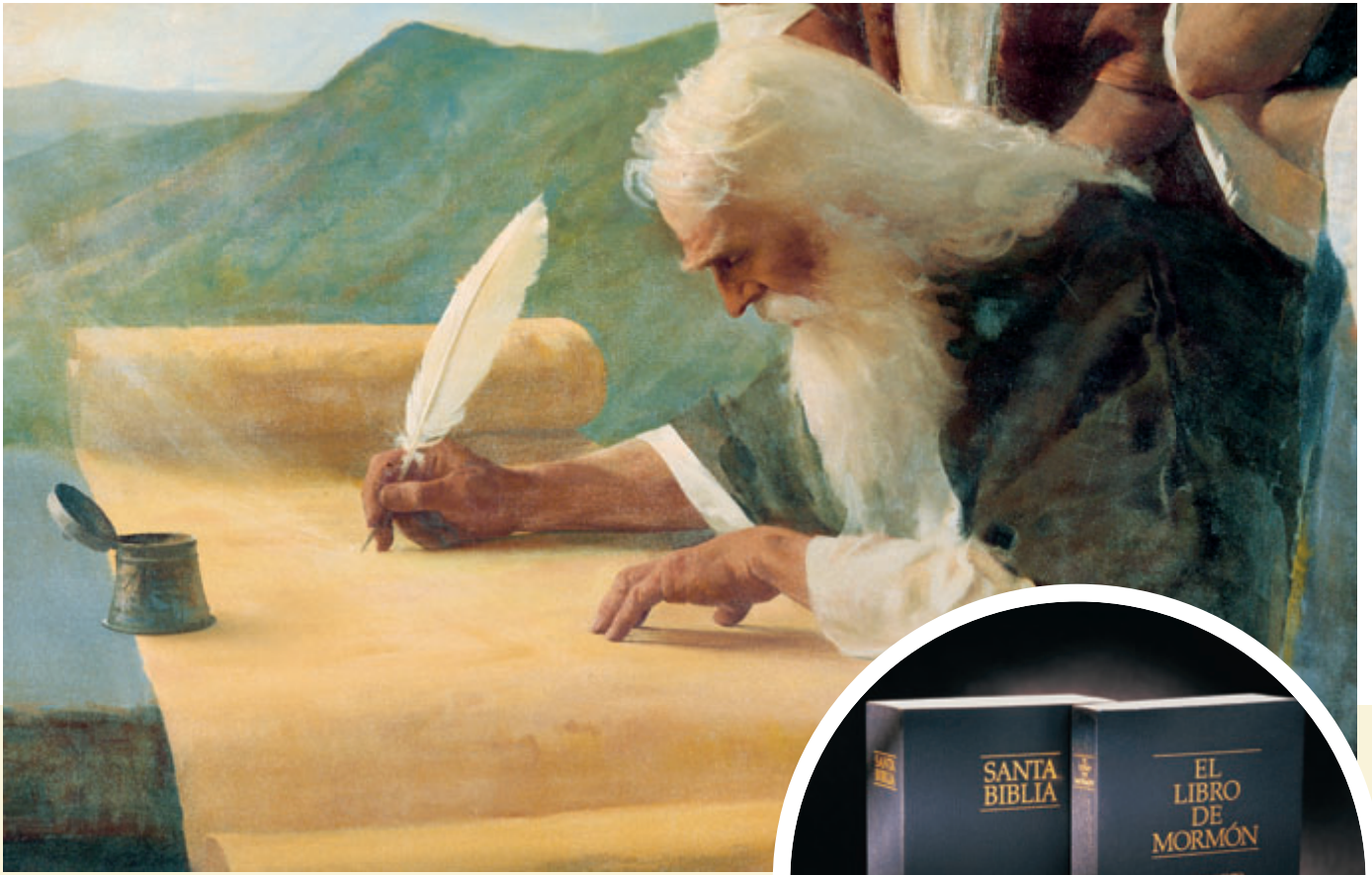
2015年10月の総大会の前の火曜日、当時管理ビショップだったスティーブソン長老は、トーマス・S・モンソン大管長と顧問の二人に会うよう電話で言われました。

「モンソン大管長は、『……あなたに十二使徒の召しを〔伝えます〕』と言った後、『この召しを受けますか』とわたしに尋ねました。……わたしは『はい』と答えました。……モンソン大管長〔は〕優しく語りかけてくれました。何年も前に……使徒に召された〔とき〕、大管長も同じように自分が不十分であると感じたことを話し、穏やかにこう教えてくれました。『スティーブソンビショップ、主は御自分が召される人々をふさわしくしてください。』預言者のこの〔慰めの〕言葉は、〔それ以後ずっと〕……〔わたしに〕平安を与えてくれました。』⁴

ゲーリー・E・スティーブソン長老は、実に、偽りのない人です。使徒としても、管理ビショップや七十人の召しにあつたときと同様、貧しい人と助けの必要な人に手を差し伸べていくことでしょう。聖文に記されている「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい」(教義と聖約 81:5) という戒めに従っていくに違いありません。困難な召しではありますが、理解する心のあるスティーブソン長老にとっては、ふさわしい召しなのです。■

注

- 1.ゲーリー・E・スティーブソン "Lean Not unto Thine Own Understanding" (ブリガム・ヤング大学ディポーショナル, 2014年1月14日), 2, 3, speeches.byu.edu
- 2.ゲーリー・E・スティーブソン「分かりやすくして尊い真理」『リアホナ』2015年11月号, 92
- 3.ゲーリー・E・スティーブソン, 記者会見, 2015年10月3日
- 4.ゲーリー・E・スティーブソン「分かりやすくして尊い真理」81





七十人会長会
リン・G・
ロビンス長老

目の見えない者の目が見えるようになる

モルモン書の出現は、
霊的な視力を回復するための
奇跡と考えることができます。

イザヤは、主が末の日に「不思議な驚くべきわざ」を行うこととモルモン書が世に出ることを預言し、「目の見えない者の目はその暗闇から、見ることができる」と述べています（イザヤ 29：14、18）。

「恐ろしい盲目の状態」

栄えある最初の示現の少し前、アメリカ合衆国ニューヨーク州マンチェスターで起きた熱狂的な宗教運動は混乱に満ちたものでした。ジョセフ・スミスはこう記しています。「様々な教派間の混乱と争いが非常に激しかったので、……[わたしのような]者にとって、だれが正しく、だれが間違っているか、確かな結論を出すことは不可能であった。」（ジョセフ・スミス—歴史 1：8）

この回復前の混乱についてモルモン書は、「**恐ろしい盲目の状態**」と表現し、それは「小羊の福音の分かりやすくて大変貴い部分があの忌まわしい教会によって差し止められたためである」と述べています（1ニーファイ 13：32；強調付加）。

何世紀もの時を経て、あるときには意図的ではない不完全な翻訳によって、またあるときには意図的な悪意のある編集によって、分かりやすくて貴い部分が多く失われることにより、聖書が持っていたはっきりと見える霊的な視力が**弱められ**、「主の正しい道を曲げて人の子らの目をくらまし、その心をかたくなに」してしまったのです（1ニーファイ 13：27；強調付加）。

「わたしは盲人であったが、今は見えるということです。」（ヨハネ 9：25）

主の奇跡の中でも最も広く行われたものの一つは、目が見えない人の視力を回復することでしたが、¹ 救い主のさらに重要な使命と奇跡は、霊的な視力を失っている人を

癒やすことでした。主は、「わたしがこの世にきたのは、……見えない人たちが見えるようにな[る]」ためであると言われました(ヨハネ9:39)。

イザヤの比喩と末の日の霊的な盲目について見たニーファイの示現に基づいて考えると、モルモン書の出現は、霊的な視力を回復するための奇跡と考えることができるでしょう。

「また主なる神は、この異邦人が恐ろしい盲目の状態にとこしえにとどまることも許されない。……

『その日わたしは異邦人を^{あわ}憐れみ、力をもって、わたしの福音……を彼らに明らかにしよう[。]』……

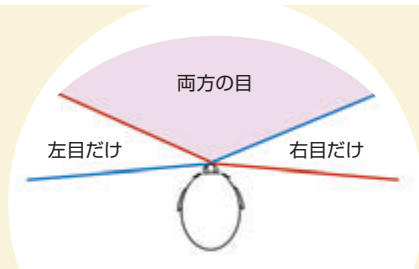
見よ、小羊は言われる。『わたしはあなたの子孫にわたし自身を現し、わたしが教える分かりやすくて貴い多くのこと

に差さなければなりません。緑内障があることを医師が発見する頃には、わたしは既に片方の目の視力を一部失っていました。わたしは、現代の医学とわたしがまだ見えていることに深く感謝しています。わたしはもう片方の目がまだ良いことにも感謝しています。それはもう一方の目の視野の一部が欠けているのを補ってくれるからです。この二つの目に関する比喩は、わたしにとって個人的に深い関連があります。

多くの科学的な分析の結果、目が一つのときよりも二つある方に利点があることが分かっています。わたしはそのうちの6つの利点を使って、世の中に霊的な視力を回復するイエス・キリストの第二の証人であるモルモン書の霊的な部分での類似性について詳しく説明したいと思います。



2A. 奥行を認識する優れた能力を持つ子供のおもちゃの例。



1. 人間には二つの目で最大約190度の水平視野がある。そのうち約120度の視野が重なっていて、その部分は両方の目で見ている。



2B. 動物の世界では、目が二つあることで、獲物となるはずの動物に、奥行を正確に認識する力が与えられ、それによって獲物を捕らえようとする動物のカモフラージュを見破ることができる。

を記させる。そして、あなたの子孫が滅ぼされ、また不信仰に陥り、またあなたの兄たちの子孫もそうなった後、まさにこれらのことは隠されて、小羊の^{たまもの}賜物と力によって異邦人にもたらされる。』

小羊は言われる。『その中には、わたしの福音とわたしの岩とわたしの救い書き記される。

……それら後の方の記録は、……初めの記録が真実であることを立証……する。……これら二つの記録は一つに合わせられ、わたしたちが真理を理解する助けとなるように一つとなるのです(1ニーファイ13:32, 34-36, 40-41; 強調付加)。

二つのものが「一つに合わせられ」というのは、二つの目で見ると、または二つの目が機能するということです。わたしは緑内障を患っているため、これ以上見えなくならないように、1日に2回、視力を維持するための奇跡の目薬を両眼

1. 二つの目があると視野が広がり、より明瞭に見えるようになる

人間は両眼で最大約190度の水平視野があります。そのうち、約120度が重なっています。つまり、両方の目で見ているわけです。視野が重なっている部分の外側に、それぞれの目にしか見えない部分もあります。²

分かりやすくて貴い部分が失われた数世紀の後、聖書は完全な視力を持たない書物になってしまいました。モルモン書が完全な視力を持って世に現れたことで、霊的な視野が広がっただけでなく、二つの霊的な目、すなわち両眼の視野(図1参照)の重なり合う部分があることで、本当に必要とされた明瞭さももたらされたのです。聖文ではこのことを二人の証人の律法と呼んでいます(マタイ18:16; エテル5:4; 教義と聖約6:28参照)。

視野が重なっている、すなわち**両眼の視野が合わさって**い

ることで、かすかな物でも見つけられる能力が高まります。³ それぞれの目で見ると別々の光景が一つの像に結ばれるときに**視軸**が重なることで、さらにはっきりと物を見ることができます。⁴ そのようにして、年若いジョセフを非常に悩ませていた「混乱と争い」が解消されることになるのです（ジョセフ・スミス—歴史 1：8 参照）。

目は二つある方が一つよりも良いという事実は、誰でも知っている自明のことですから、イザヤは世界中の誰でも分かる比喩を選ぶに当たって、「目の見えない者の目が見えるようになる」という表現以上のものがなかったのです（イザヤ 29：18）。現在片目だけの霊的な目に相当する聖書を通してものを見ている人々がありますが、わたしたちはそうした人々が、イエス・キリストの第二の証人であるモルモン書を読もうともせず拒んだりしないよう、必要な知恵に恵まれることを願っています。そうした人々も、「ユダの木」と「ヨセフ……の木」（エゼキエル 37：19）が二つの目となって一つの像を結んで完全で明瞭に見えるようになり、**目が覚めるような経験**をすることになります。

2. 立体視野 —— 欺きを避ける

「人間は、両眼に視力があることで、……障害物をまたいだり、回避したりして歩く場合、その障害物をより速やかに、より確実に認識することができる。」それは、奥行の認識がより詳細になるからです。⁵ この奥行を認識できる優れた能力の例は、「3Dメガネ」を使うと、平面的な写真でも立体像として鮮明に見えることから分かります（図 2A 参照）。

動物の世界においては、目が二つあることで獲物となるはずの動物に**立体視野**が生まれます。つまり、奥行を正確に認識する力や三次元的に物を識別する能力が生まれ、そのことで、「〔獲物を狙っている捕食動物〕のカモフラージュを見破る」ことができるのです。⁶（図 2B 参照）

モルモン書は似たような守りを世にもたらしています。モルモン書が存在することで、霊的な面での両眼視野に明瞭さと神に関する深い理解の力が回復され、わたしたちがサタンのカモフラージュや欺きを避けられるようになったのです。サタンは、多くの聖句の意味をぼかすことで、巧妙に混乱をもたらしました。モルモン書はこのカモフラージュを非常に明瞭な裏付けとなる証拠によって見破り、「偽りの教義を打ち破り」（2 ニーファイ 3：12）、「悪魔の悪知恵とわなと策略をことごとく絶つ」（ヒラマン 3：29）のです。

エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 – 1994 年）は、新たな確信をもたらすモルモン書のこの約束についてこう語っています。「モルモン書には力があって、真剣に読み始めるやいなやその力は読む者の人生に流れ込み、誘惑に打ち勝つ力となります。またそれは**欺きを避ける力**となり、細くて狭い道……にとどまる力となります。」⁷

3. 障害物の周りを見る

両眼視野があることで、人は障害物の背後にある物の多くや全てを見ることができます。レオナルド・ダ・ビンチはこの利点を説明し、たとえある物体が柱によってその一部または全部が左目から見えなくとも、その物体は右目には



3. 両眼視力があると、人は障害物の背後にある物の多くや全体を見ることができる。違いが分かりますか。

まだ見えている、と言っています。⁸（図 3 参照）

このことに関して霊的な面での実例を挙げるなら、それは古代のユダヤ人に語った主の言葉の中にあります。「わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。」（ヨハネ 10：16）

イエスはこの他の羊が誰であるかを明らかにされなかったため、ユダヤ人たちは主の言葉を理解することができませんでした。しかし、モルモン書にある**新たな視野**を加えることによって、隠された部分が見えるようになりました。「まことに、あなたがたに言う。『わたしには、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼いとなるであろう』とわたしが言ったその

羊とは、あなたがたのことである。」(3 ニーファイ 15:21) その結果、救い主が何を言おうとされていたのかについて、誤解することなく明瞭な視界が得られたのです。もう障害物による思い違いはありません。

4. それぞれの目にある周辺視野の利点

「周辺視野とは、中心視野の外側に生ずる視野の一部のことです。」⁹ 言い換えると、実際に焦点を合わせていない視野にも物が存在することに、わたしたちは気が付いているということです。その視野の部分というのは、両眼の視野、すなわち立体視野の範囲の外側にあつて、それぞれの目にしか見えない部分です。

わたしたちは聖書に心から感謝しています。聖書は最も大切なこと、すなわちイエス・キリストの生涯とその働きを歴史を聖書だけの目で見事に教えています。

わたしたちはまた、欠ける部分のない完全な視野を与えてくれるモルモン書に深く感謝しています。モルモン書は、キリストの教義を分かりやすくし、古代アメリカの預言者を通してその教えを伝えるとともに、ニーファイ人に主が個人的に訪れて教導の業を行われたことを明らかにしています。

二つの目が神の力で組み合わさって働いていると同様に、聖書とモルモン書は互いに補い合った結果、両眼の視野を活用した壮大なパノラマが開けると同時に、それぞれの聖典にしか見えない部分も見えるようになります。

5. 盲点を取り除く

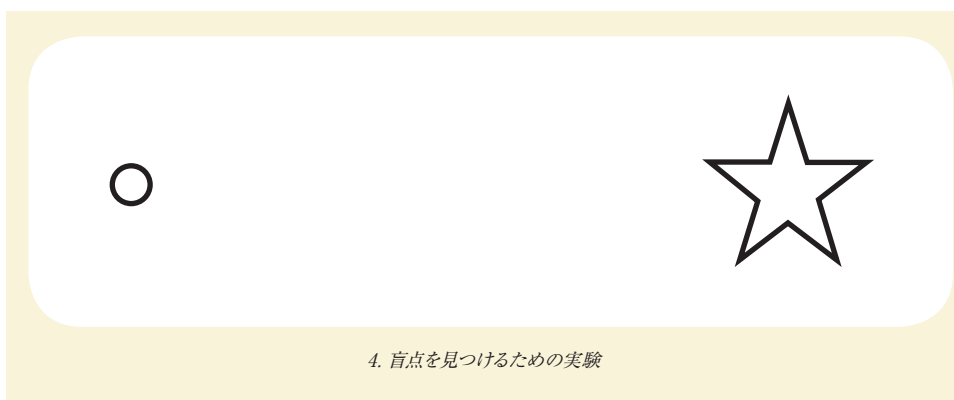
わたしたちは皆、自分の視野の中に盲点を持っていますが、これは比較的簡単に見つけることができます。丸と星の図(図4)を腕を伸ばして自分の正面に持ってください。左目を閉じ、右目で小さな丸を注視してください。右目でその丸を注視したまま、その図をゆっくりと手前に動かします。約半分のところに来ると、星が**周辺視野**から消えます。

驚きましたか。自分にも盲点があるなんて、知らなかったですよ。ちょうどもう片方の目がこの盲点で見えない部分を補っているように、モルモン書は聖書に対して同様の優れた働きをしています。

そしてちょうど星があなたの目の前で消えたように、ヘロデにはベツレヘムの星が見えなかったために、「星の現れた時」について博士たちに尋ねなければなりません(マタイ 2:7)。それは、ヘロデの周辺視野の中で、霊的な意味での**盲点**でした。その星を待ち望んでいた人々だけが星に気づいたのです。

今日、ヘロデのような人々がたくさんいて、^{みたま}御霊に関わることを探そうともせず、見ようともしません。「見ようとせずに、盲人のようにになっている者は災いである。」(2 ニーファイ 9:32) 高慢が原因となってユダヤ人は、「分かりやすい言葉を〔侮り〕、……〔彼らは〕的のあなたに目を向けたために盲目と」なったのです(モルモン書ヤコブ 4:14)。

モルモン書を読んで、実に考えさせられる見方の一つは、



高慢という盲点が広く存在することをあらかじめ警告していることです。そのことを「他人が犯す……罪はすぐに**目**につきませんが、自分自身にその罪があると認めることはめったにありません」と言っています。¹⁰ それは口臭のようなものです。他の人は誰でも分りますが、本人は気づかないのです。

「前世の会議において、あのルシフェルが投げ落とされたのは、その高慢さのゆえでした。」¹¹ 「ニーファイ人の民は、……高慢のために滅びてしまう。」(モロナイ 8:27) 神が火で地球を焼き尽くすとき、わらのように燃えるのは高ぶる者です(マラキ 4:1; 3 ニーファイ 25:1 参照)。

細くて狭い道の入口には、ほんやりと見える「警告」の標識が立っていて、「あなたがたは昔のニーファイ人のようにならないよう、高慢に**気をつけなさい**」と書かれています(教義と聖約 38:39; 強調付加)。「気をつけなさい」という標識そのものが、普通は高慢という盲点の中にあるのは、痛ましい皮肉です。ですから、「知識のない者は、その目が

開かれて見えるように、またその耳が開かれて聞けるようになるために、へりくだって主なる神に呼び求めることによって知恵を得」てください(教義と聖約 136:32)。

6. 目と脳とのつながり

この方程式(図5参照)は一見正確そうですが、完全に正しいわけではありません。わたしたちの目が見ているものをわたしたちに教えているのは、実際には脳の中で像を結ぶシステムです。脳は、夜中にわたしたちが見る夢を作り出し、昼になるとわたしたちが見るものを解き明かします。見るということは、必ずしも信じるのではなく、正しく見ているということでもありません。例えば、「[イエスが]このように多くのしるしを彼らの前でなさったが、彼らはイエスを信じなかった」とあります(ヨハネ 12:37)。目だけでは、信仰を育んだり、**本当に見る**ためには不十分です。

ちょうど脳が目と一体となって働くように、御霊が聖文と一体となって働くことにより、わたしたちは霊的に物事を見ることができるようになります。ただ聖文を読むだけで、霊的な視野が広がるわけではありません。なぜなら「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受け入れない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない」からです(1コリント 2:14)。

モルモン書が霊的な目として機能するためには、わたしたちは、モロナイ書第10章3-5節にあるモロナイの勧めを受け入れて、誠実に従う必要があります。この勧めには、神は「聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる[であろう]」という約束が伴っています(4節;強調付加)。

あかし 証と感謝

霊的に盲目にならないようにするために、リーハイの息子たちは生命の危険を冒してまで真鍮版を手に入れようとなりました(1ニーファイ 3-4)。この版がなければ、彼らは「不信仰に陥っていた」ことでしょう(モーサヤ 1:5)。現在では、印刷機とデジタルツールのおかげで、より簡単に、そしてより迅速に聖文が利用できるようになっています。暗黒時代のサタンの策略は、人々が聖文を手に入れられないようにすることでした。この末の世におけるサタンの策略は、人々が聖文を読まないように誘惑することです。しかしながら、サタンにとってこの二つに違いはほとんどありません。いず

れにしても、サタンの「暗黒の霧は[首尾よく]……人の子らの目をくらし……彼らが滅び失われるように仕向け」ているのです(1ニーファイ 12:17;強調付加)。

わたしが**毎日**使う目薬のように、わたしたちには「しっかりと鉄の棒につかま[る]」以外に方法はありません。そうしなければ、非常に巧妙で蔓延している末の日の霧によってわたしたちの目はくらまされてしまうのです(1ニーファイ 8:30;強調付加)。人があまり活発でなくなったり、教会を去ったりするときは、ほぼ間違いなくモルモン書を読むことをやめてしまっています。

イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書は、実に不思議な驚くべき業の書です。モルモン書はイエス・キリストとその栄光に満ちた福音に対する第二の証人で

目 = 彼らは見る

(*the eyes* で使われている文字をすべて使って並べ直すと *they see* となる。)

5.

あり、第二の目として持つ優れた点をことごとく提供してくれています。

しっかりと鉄の棒につかまり、救い主が御自身の弟子たちに対して「あなたがたの目は見ており、さいわいである」と言われて褒められたように、わたしたちも、その言葉にふさわしい者となることができますように(マタイ 13:16)。■

注

1. マタイ 9:27-31; 12:22-23; 15:30-31; 21:14; マルコ 8:22-26; 10:46-52; ルカ 7:21-22; ヨハネ 9章; 3ニーファイ 17:7-9; 26:15 参照。
2. "Binocular Vision," Wikipedia, en.wikipedia.org. 参照
3. ランドルフ・ブレイクとロバート・フォックスによる "The Psychophysical Inquiry into Binocular Summation," *Perception & Psychophysics*, vol. 14, no. 1 (1973年), 161-68; "Binocular vision." も参照
4. "Vergence," Wikipedia, en.wikipedia.org. 参照
5. "Binocular Vision."
6. "Binocular Vision."
7. 『歴代大管長の教え—エズラ・タフト・ベンソン』131
8. "Binocular Vision." 参照
9. "Peripheral Vision," Wikipedia, en.wikipedia.org.
10. 『教え—エズラ・タフト・ベンソン』219, 強調付加
11. 『教え—エズラ・タフト・ベンソン』215

人生で起こった 7つのすばらしい 奇跡

エフREM・スミス

わたしはテキサス州フォートワース伝道部で多くのすばらしい人々に教え、奉仕しながら、自分が人生で受けてきた祝福を度々思い返しました。特に驚くのは、わたしが経験してきた、奇跡と思える7つの出来事です。

最初の奇跡は、誰よりも貧しい環境に生まれながら、幼少時を生き延びることができたことです。わたしは、エチオピアのデセにある、掘って建て小屋の土間で生まれました。母はわたしの知るただ一人の親族でした。母は自分独りで棒や土を使い、草や葉でそれを覆って、高さ2.4メートルのドーム型的小屋を建てたのです。村には水道もなければトイレの施設もありませんでした。ケベレ（近隣を意味する）では、病気が蔓延（まんえん）していました。食べ物を見つけるのは至難の業で、わたしたちにはとうてい買えませんでした。母もわたしも、ひもじい思いをしない日はなかったのです。

わたしが4歳のとき、母は重い病気にかかりました。最期の力を振り絞り、はうようにして病院に行ったのですが、愛する母は、力尽きてそこで亡くなりました。その病院の職員が手配してくれたおかげで、わたしはエチオピアの首都アディスアベバにある孤児院に入ることができました。この職員の助けがなかったら、わたしは路上で飢え死にしていたでしょう。

2番目の奇跡は、わたしの人生が劇的に変わったことでした。この孤児院では、きれいな建物に住み、本物のベッドに寝て、食べたいものを何でも食べることができたのです。他の孤児も家族を亡くしていて、母親を亡くした子供はどうすればよいのかをわたしに教えてくれました。わたしたちは夕方になると集まって英語の歌を歌い、母国語であるアムハラ語で祈りました。お互い、「思いやりと愛のあるすてきな家庭」の養子にもられますようにと祈ったのです。英語の歌もその祈りも、わたしの人生に大きな影響を与えました。わたしは決して祈ることをやめませんでした。



主は御自分の用意された道をわたしが歩めるよう、
奇跡を起こして、わたしの人生を祝福してくださいました。

3番目の奇跡は、8歳のときに、紹介されて、宣教師と教会を知ったことです。2003年11月30日に行われた、エチオピア初の末日聖徒イエス・キリスト教会の建物の奉獻式を見に行かないかと誘われたのです。奉獻式でわたしは、聖霊の力を強烈に感じました。出席していた宣教師は、喜びと幸せと、わたしが感じたと同じ強烈な御霊の力で輝いていました。わたしは今でも覚えています、この宣教師のような人になりたいと思いました。でも、どうすればなれるのかはまったく分かりませんでした。

4番目の奇跡は、そのすぐ後に起こりました。アメリカ合衆国のある家族が、わたしを養子に迎えてくれたのです。新しいお父さんが孤児院にわたしを迎えに来て、家に連れて行ってくれました。お互いのことを分かり合う努力が始まり、わたしは新しい環境になじみ始めました。

新天地に着くとすぐに、問題が幾つも出てきました。どこに行っても、英語が変だと笑われたのです。ろくに教育を受けていなかったもので、学校では勉強についていけません。助けを求めて祈り、さらに一生懸命に勉強して知識の差、特に英語力の差を埋めて賢くなれるよう努力しました。このときもまた、天の御父はわたしの祈りにこたえてくださいました。2年後、わたしは飛び級という榮譽にあずかったのです。

しかし、その頃、わたしの家庭はうまくいかなくなり、主への祈りと高い目標、成功への深い望みがあったおかげで、わたしはこの非常につらい時期を乗り切ることができました。ソーシャルワーカーの助けを得て、父とわたしは養子縁組を解消することに合意したのです。祈りと忍耐、信仰、天の御父の助けが必要な時期でした。

当時わたしは15歳になっており、里親の元に行って1年ほど暮らしました。5つ目の奇跡が起こったのは、このときです。友達二人とそりに乗っているときに、かわいい二人の娘を連れて末日聖徒の家族と出会いました。家に帰る途

中、その家族の娘の一人がこう言ったのです。「主はわたしたちに、エフレム・スミスを養子にするよう望んでおられると思うわ。」驚いたことに、その家族の他の3人も、靈感を受けて同じことを感じていました。その家族のお父さんが社会福祉課と掛け合ってくれて、すぐにわたしはこの新しい家に引っ越しました。新しいお父さんは驚くほど素晴らしい人で、最初からわたしに選択の自由を与えてくれました。例えば、自分の家族は日曜日に教会に行っているという説明をしてから、一緒に行くか、それとも家に残るかは、自分で決めていいと言ってくれたのです。教会に行かないことにしたとしてもわたしを愛することに変わりはないとも言ってくれました。わたしは教会に行くことにしました。それ以来わたしは、他にも義にかなった決断をたくさん下してきました。

6番目の奇跡は、わたしが福音の証を得たということです。ある日曜日、わたしは座って「主イエスの愛に」を歌っていました（『賛美歌』109番）。涙がとめどなくこぼれ始め、頬をぬらしました。イエスはキリストであり、この教会は主の教会だという証を受けたのです。

あれから9年後、ついにわたしは、あの宣教師のような人になる方法を知りました。当時、伝道に出る年齢は18歳になっていましたが、わたしの養子縁組の手続きはまだ完了していませんでした。養子縁組の手続きが終わるまでの7か月間、首を長くして待ちました。そしてついに、宣教師申請書を提出することができたのです。伝道の召しを受け取ったのは、その4日後でした。主は、僅か1週間のうちに、養子縁組の完了通知と伝道の召しの両方を与えてくださったのでした。どちらの書類も、わたしにとって大切な宝物です。この2通が7番目の奇跡です。そうです。確かに、たくさんの奇跡があったからこそ、エチオピアのあの泥で作った掘っ建て小屋で生まれたわたしが、宣教師になることができたのです。■

筆者はアメリカ合衆国ネバダ州在住です。

わたしに従ってきなさい—— 家庭で基本を 教える

アリシア・スタントンと
ナタリー・キャンベル

預言者が繰り返し教えているように、「わたしたちの成功は、個人的にも教会全体としても、家庭で福音を实践することにどの程度忠実に取り組んでいるかによって決ま〔ります。〕」¹

福音を实践することは、福音を学び、教える最良の方法です。これらの教義的な原則に従って生活するならば、家族と自分自身を御霊に近づけることができるでしょう。御霊の助けがあれば、これらの原則を最もよく学び、教えることができます。自分たちの必要や状況に合う最も効果的な学習方法に導かれ、家族とともに成長して救い主に近づくことができます。



この会員たちの模範に従って、あなたも青少年の教科課程の原則を家庭に取り入れることができます。



7月

儀式と聖約

神権の儀式と神聖な聖約、すなわち天の御父と交わす約束は、生活に豊かな祝福をもたらします。儀式の目的を思い描く一つの方法は、儀式を天の御父のみもと、すなわち永遠の命に至る道に置かれている道しるべだと考えることです。わたしたちは、自分が交わした聖約を守ることにより、その道にとどまることができます。

例えば、ある若い女性は、聖約の道にとどまる方法について次のように述べています。「あるとき、クラスの友達から助けを求められました。あまり深く考えず、彼女が必要としていた助けを与えました。しかし後になって、彼女が重荷に耐えられるよう助けることによって、わたしはバプテスマを受けたときに交わした聖約を守っていたということを、御霊が気づかせてくれました（モーサヤ18：8-10参照）。わたしが聖約の道を選ぶように、天の御父が日々くださっているさまざまな機会に感謝しています。」

家族で、それぞれが今後受ける必要のある儀式を確認

し、次に、既に交わしている聖約をどの程度守っているか評価します。

例えば、毎週聖餐せいさんの儀式を受けるために行っている備えは、聖約を守ろうとするあなたの決意をどのように反映しているでしょうか。聖霊はあなたに、どのように改善すべきかを教えてください。



上
フ
ォ
ト
イ
ラ
ス
ト
／
テ
レ
ビ
ド
・
ス
ト
ー
カ

8月

結婚と家族

結婚と家族は、わたしたちの幸福と、わたしたちを救うための天の御父の計画の中核を成すものです。家族はこの世と永遠における基本単位です。

自分の経験について話すという簡単なことにより、結婚と家族について子供たちに教えることができます。あるヤングアダルトは、神殿の結び固めに感謝するようになったいきさつを次のように話しています。

「わたしは神殿の誰もいない日の栄えの部屋に一人で座っていました。婚約者に必要な推薦状について話の行き違いがあったために、その日に神殿で結び固めを受けられるか分からず、不安でした。

わたしは、その日に神殿でわたしたちが結び固めを受けられるようにしてくださるよう主に熱烈に祈り求め始めました。祈っていると、ある思いが浮かんできました。『あなたは今、日の栄えの部屋に独り

でいるが、日の栄えの王国は、あなたが独りではないので日の栄えなのである。あなたの永遠の家族とあなたの天の家族がともにいるであろう。あなたが結び固めを受けようとしているのはまさにそのためである。』



40分後、何回か電話でやり取りを重ね、夫とわたしは結び固めを受けることができました。わたしは感謝と安堵で胸がいっぱいになりました。儀式はわたしにとって、より意義深いものとなりました。なぜならわたしたちは、決して独りになることのない場所で、神とともに日の栄えの生活を築くことができるからです。」

あなたはどのような経験から、天の御父の計画における結婚と家族の役割について学んできましたか。聖霊は、あなたが適切な経験を思い出し、そのことについて話すことができるように助けてくださるでしょう。家族の状況がどうであれ、聖霊はあなたに、結婚と家族に関する原則を生活の中で実践する方法を教えてください。



9月

戒め

戒めは、わたしたちの生活に祝福をもたらすために愛に満ちた天の御父が授けてくださった律法と条件です。

それらを研究する効果的な方法の一つは、次のヤングアダルトが行ったように、聖文を調べて、従順からもたらされる祝福について学ぶことです。

「戒めについて調べるときに、わたしはいつも、その戒めに関する聖句を見つけられる限り読んで、従順に対して天の御父が約束してくださっている祝福を書き出すようにしています。約束されている祝福についてもっとよく学ぶことにより、天の御父がわたしを愛してくださっていて、わたしを祝福したいと思っておられるという証^{あかし}が強められました。」

戒めについて学び、教えるために、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』第3章のレッスン4を子供と一緒に読み、関連聖句を調べ、約束されている祝福のリストを自分で作るとよいでしょう。福音のどの原則に関連する祝福を学ぶときにも、この方法を用いることができます。

10月

さらにキリストのようになる

キリストは教導の業を行っておられたときに、このように命じられました。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48) キリストのたくさんの特徴を一つずつ身につけようと取り組み、主の助けを得ながらその分野を改善しようと努めるときに、わたしたちは完全を目指して努力していることになります。ある若い男性は、まず勤勉という特質に取り組みました。

「キリストのような特質をさらに伸ばしたいと思ったので、聖典と『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を勉強しました。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の第6章で、キリストのような特質を伸ばすためのパターンが提案されているのを見つけ、勤勉という特質に取り組むことにしました。まず、自分なりの勤勉の定義と、それについて抱いていた疑問を書き出しました。それから、勤勉について提案されている聖句を読み、感じたことと読んで見つけた答えを書き留めました。その後、学校の勉強をもっと熱心に行うという目標を立てました。そして、勤勉になれるように毎晩祈ると、やる気が湧いて一貫して取り組むことができました。」

キリストのような特性を伸ばすように努め、そしてキリストのような特質を伸ばす方法を子供たちに教えるとき、何から始めたらよいかを知るのに教会の資料が役立つでしょう。聖典から常にキリストの模範を知ることができますし、また『わたしの福音を宣べ伝えなさい』のような資料は、研究や目標設定の習慣づけに役立つパターンを教えてください。聖典と他の資料を併用すると、学んだこと

を実践し、さらにキリストのようになるうえで役立ちます。



11月

霊的・物質的な自立



自立の度合いを高めるとは、選択の自由を行使して自分自身と家族の世話をし、自分の問題の解決方法を見いだすために全力を尽くすことです。さらに自立することにより、家庭や教会、地域社会の中で奉仕する能力が高まります。次の会員が述べているように、このような概念を教える最良の方法の一つは模範によるものです。

「わたしの記憶する限り、母は毎日早起きをして聖文を研究していました。わたしは、母が育んできた霊的な強さによって苦難を乗り越えるのを目にしてきました。母は、自分を助けてくれるものとして天の御父との関係を頼りにしています。わたしは、母の霊的な強さに加え、家族を世話する母の能力にも感銘を受けてきました。母は予算を立て、自分の欲しいものを犠牲にして、教育を求めました。また、家族の財政的な必要を満たしながらも放課後は家庭で子供と過ごし、大いに謙遜さを示しました。わたしは、母のような強さを身につけたいと思います。どうすれば身につけられるかを教えてくれる母の模範に心から感謝しています。」

あなたが、将来に備える生活のより良い模範を子供たちに示すにはどうすればよいでしょうか。あなたが自立の幾つかの側面についてまだよく分からなければ、一緒に学ぶように子供たちに勧めるとよいでしょう。そのこと自体がすばらしい模範となります。



12月

末日に神の王国を築く

「あなたがこの国に迎えられるのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう。」(エステル4:14)。あなたが、神の王国を築くに当たって自分の役割が何か分かったら、このように自分自身と子供たちに問いかけるとよいでしょう。

次の会員は、自分が王国を築けるように主が助けてくださるということについて、主を信頼することを学びました。「わたしは、召しは主から与えられるものなので常に引き受けるものだ、幼い頃から両親より教えられてきたことを覚えています。大学在学中に、扶助協会会長の召しを受けました。圧倒されましたが、断ろうとは思いませんでした。その年、経験はほとんどないまま、足りない部分を主が補ってくださるという信仰をもって、100人以上の女性のお世話をしました。1年後、わたしは解任されました。思い返せば、その時々、どのようなレッスンをすればよいか、あるいは何を言えばよいか、啓示を通してはっきりと知ることができました。また、料理をする時間もないほど忙しかったわたしのために誰かが食事を差し入れてくれたことが何度もあり、励ましのカードもたくさん頂きました。王国を築くというわたしの取り組みを、主が確かに尊んで大いなるものとしてくださったことが分かりました。」

神の王国を築く方法を子供たちとともに考えるときに、奉仕するように彼らを励まし、奉仕の機会を与えることを覚えておきましょう。あなたが受けている召しによって他の人々に仕える方法について話し合ってもよいでしょう。他にどのような方法で御業が前進するのを手伝えるでしょうか。どこで奉仕しようと、あなたの努力には価値があります。大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長はこう述べています。「肩を寄せ合せて、自分の立っている場所で持ち上げることができるよう。」² ■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

注

1. スベンサー・W・キンボール「家庭で福音を实践する」『聖徒の道』1978年10月号, 155。L・トム・ベリー「弟子となること」『リアホナ』2001年1月号, 72も参照
2. ディーター・F・ワークトドルフ「自分の立っている場所で持ち上げる」『リアホナ』2008年11月号, 56

この記事の第1部は、『リアホナ』2016年1月号に掲載されました。

教会機関誌

デビッド・A・エドワーズ

歴史を通じて、無数の人々がヨブと同じ疑問を抱いてきました。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」(ヨブ 14:14) イエス・キリストとその復活に対する証^{あかし}を持つ人々の特権は、このような疑問に「もちろんです」と断言できることです。

それでも、わたしたちの周囲の多くの人は「この世の中で……神もな〔く〕」この世の生涯を過ごし(エペソ 2:12)、死についてのさまざまな事実や信条の中から自分で正しいと思うものを見つけ出さなければなりません。まず、目に見える証拠、すなわち死が普遍的で絶対に訪れるという「厳しい現実」があります。幕のかなたから戻って来た人は一人もいません。それから、臨死体験をした人々の話が広く知られています。しかも、それらは驚くほどよく類似しています。さらに、世界各地の文化では何らかの形で死後の世界が信じられています。この共通点の説明もつけなければなりません。

しかし、死んだときに命が終わらないという確信は神から来るものです。神はこのことを預言者や使徒、そして何より大切な聖霊などの数々の証人を通して、時の初めから明らかにされました。



死後の生活

について
どんなことが分かっているのでしょうか

「人がもし死ねば、
また生きるでしょうか。」
もちろんです。
しかし、その後
どうなるでしょうか。

時の初めから

わたしたちの最初の両親であるアダムとエバは、地上で初めて救いの計画を教えられました。彼らはイエス・キリストの福音について、また天の御父のもとへ帰る方法について学びました。そして、「帰る」ということから、以前自分たちが御父とともにいたことを理解しました。ですから、アダムとエバは初めから、現世の生涯だけではないことをはっきりと知っていました。二人は、イエス・キリストの贖罪のおかげでこの世の生涯の後に復活すること、そして従順であるなら永遠の命を受けることを知っていました。また、そのことを子供たちに教えました（モーセ 5：10 - 12 参照）。

俗世の理論では、来世への信仰というのは万人共通の、ある心理的必要から別個に発生したものであると考えられています。そうではなく、広く信じられている来世という概念は、一種の先祖から伝わる記憶や（前世の記憶と言わなくても）集団社会で受け継がれてきた記憶から来ています。時の初めに明らかにされた事柄が世代から世代へ受け継がれたのです。ジョセフ・F・スミス大管長（1838 - 1918 年）がかつて一部の共通する宗教的な習わしについて語った言葉は、死後の生活など、一般的に信じられている事柄にも当てはまります。「[[その] 知識が……アダムの子孫によって全地に伝えられ、……そしてノアを通して……彼の後の世代に伝わり、全ての国々に及んだ……ことでしょう。」（“Discourse”, *Deseret News*, 1873 年 2 月 19 日付, 36）

このように、来世という概念は人の起源と同時に生じたため、万国共通なのです。

分かりやすくて貴い真理

わたしたちは末日聖徒として、人の存在に関する真理を大胆に証することで、神を知らずに生きている人々の生活に希望をもたらす助けができます。死んだら終わりではないのです。それだけでなく、これまで明らかにされてきた、回復された福音の分かりやすくて貴い真理があるので、死後の生活に関する多くの質問に答えることができます。以下はそのような質問の幾つかの例とそれに対する簡潔な答えです。

わたしたちが死んだ直後はどうなるのでしょうか。

死ぬとき、霊は肉体から分かれて、霊界に入ります（ヤコブの手紙 2：26；アルマ 40：11 参照）。

霊はどのようなものですか。

霊の体は前世にいたときと同じような姿形、すなわち完全に成長した大人の姿をしています（エテル 3：16；『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』130－132 参照）。死んだ後、わたしたちの霊は地上で肉体的に死んだときに持っていたのと同じ態度、欲求、願望を持ちます（アルマ 34：34 参照）。

霊とは何ですか。

霊は一種の物質ですが、「もっと微細で純粹」です（教義と聖約 131：7）。

霊界はどのような所でしょうか。

霊界にいる霊たちはおもに 2 種類の状態、すなわち場所に置かれます。その状態とはパラダイスと霊の獄です。義にかなった霊はパラダイスに行きます。そこは「安息の状態、平安な状態 [で] ……彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不幸と憂いを離れて休」みます（アルマ 40：12）。イエス・キリストの福音をまだ受け入れていない人々の霊は、霊の獄に入ると言われています（1ペテロ 3：18－20 参照）。彼らはそこでも善悪を選んだり、福音を受け入れるか拒むかを選んだりすることができます。パラダイスにいる霊たちが彼らに福音を宣べ伝えることができます（教義と聖約 138 章参照）。霊と肉体が長い間分離している人々は、この状態を「一つの束縛」と考えます（教義と聖約 45：17；138：50）。

天とは何ですか。

一般的に、天は神が住んでおられる所、そして義にかなう人々が後に住む所と考えられています。この点で、霊界のパラダイスとは違います。

地獄とは何ですか。

聖典で「地獄」という言葉は次の二つのどれかを指します。(1)「現世において不従順であった人々が霊界で一時的にとどまる場所」、あるいは(2)「イエス・キリストの贖罪しよくざいによって贖あがなわれない者が永久にとどまる所」です（『聖句ガイド』「地獄」の項、scriptures.lds.org）。一般的な意味で

は、福音を拒んだ人々が味わう霊的な苦しみの状態を指します。ジョセフ・スミスは次のように教えています。「死者の霊が受けるひどく惨めな状態とは、ほかの人々が享受し、自らも享受できたかもしれない栄光を自分は受けられないと知ることです。彼らは自分で自分を訴えるのです。」（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』224）

復活とは何でしょうか。

復活とは、霊と体が再び結合して完全な、不死不滅の状態になることです（アルマ 11：43 参照）。

誰が復活するのですか。

この地上に生を受けた全ての人が復活します（1コリント 15：22；アルマ 11：44 参照）。

わたしたちはいつ復活しますか。

人はそれぞれ違うときに復活します。イエス・キリストの復活によって、第一の復活、すなわち義人の復活が始まりました。そのとき以来、一部の義人は既に復活しました。イエス・キリストの再臨の後、さらに多くの義人が復活します。福千年の間、他の善良な人々が復活します。福千年の後、



悪人が復活します(教義と聖約 76 : 32 - 112 ; 88 : 97 - 101 参照)。

復活した体はどのようなものですか。

復活した体は骨肉でできており(ルカ 24 : 39 参照), 不死不滅で(アルマ 11 : 45 参照), 完全で(アルマ 11 : 43 参照), 栄光に満ちた美しいものです。「復活した男性あるいは女性の姿ほど美しいものはありません。」(ロレンゾ・スノー大管長 [1814 - 1901 年], *The Teachings of Lorenzo Snow*, クライド・J・ウィリアムズ編 [1996 年], 99)

復活した後、どうなるのでしょうか。

全ての人が復活し、福千年が終わると、わたしたちは神の前に連れ出されて、言葉と行いと思いと望みに応じて裁かれます(黙示 20 : 12 ; アルマ 12 : 14 ; 教義と聖約 137 : 9 参照)。イエス・キリストがわたしたちを裁かれます(ヨハネ 5 : 22, 27 - 29 ; ローマ 14 : 10 参照)。

最後の裁きの後どうなるのでしょうか。

最後の裁きの後、わたしたちは次の永遠の報いのどれか

を受けます。

日の栄えの王国——天の御父、イエス・キリスト、そして福音の全ての聖約を交わして守ることで永遠の命を受けるふさわしさを保った全ての人々が住む所です(教義と聖約 76 : 50 - 70 参照)。

月の栄えの王国——イエス・キリストの福音を受け入れなかったが、霊界で受け入れた善良な人々、あるいは現世でイエス・キリストの証に雄々しくなかった人々が住む所です(教義と聖約 76 : 71 - 80 参照)。

星の栄えの王国——イエス・キリストの福音を受け入れず、福千年が終わるまで復活しなかった悪人の住む所です(教義と聖約 76 : 81 - 89 参照)。

永久の罰——滅びの子たち、そして悪魔とその使いたちが置かれる最終的な状態です(教義と聖約 76 : 31 - 49 参照)。

人々は日の栄えの王国で何をするのですか。

日の栄えの王国の最高の階級を受け継ぐ人々は昇栄します。つまり、永遠の命を受け、天の御父のようになり、御父が持つておられる全てを受けます。天の御父のようになることは、愛や奉仕を含めて、御父の完全な特質を身につけることを意味します。¹ また、御父の業と栄光を一緒に担うことも意味します。御父の業と栄光とは「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」です(モーセ 1 : 39)。昇栄には永遠の結婚で結び固められ、永遠の家族として生活し、永遠の霊の子孫をもうけることも含まれます(教義と聖約 76 : 59, 62 ; 130 : 2 ; 132 : 19 - 23 参照)。

他の栄光の王国にいる人は何をするのですか。

他の王国にいる人々は天使になります。天使は「はるかに優れた、並外れた、永遠の重みのある栄光にふさわしい者たちに仕える奉仕の僕^{しもべ}」です(教義と聖約 132 : 16)。彼らは結婚したり、霊の子孫をもうけたりしません(教義と聖約 131 : 1 - 4 ; 132 : 16 - 17 参照)。■

注

1. 「奉仕とは、日の栄えの王国に入る資格を勝ち得るために、この地上で我慢して行うものではありません。日の栄えの王国における昇栄の生活そのものが奉仕なのです。」(大管長会第二顧問マリオン・G・ロムニー管長 [1897 - 1988 年] 「日の栄えに至る自立の本質」『リアホナ』2009年3月号, 19)



わたしたちは
日々の生活の中で
イエス・キリストの
贖罪しゅくざいを
実感するとき、
心の変化を
経験しようと
たゆまぬ努力を
続けていることに
喜びを
見いただきます。

心の 変化を経験する



七十人
エドワード・
デュベ長老

わ たたちの最初の子供であるローズマリーが
実にかわいらしい赤ちゃんのとき、中央ジン
バブエの村に住むわたしの母が訪ねて来まし
た。親になりたての妻のナウメもわたしも、母の来訪を
心待ちにしていました。子供を育てるために知っておか
なければならないことをことごとく学ぼうと意気込んで
いたのです。

到着すると、母は布製の丸いネックレスを取り出しまし
た。布に包まれているのは魔法の品だと、母は説明する
のです。そしてナウメにそれを手渡すと、ローズマリーの
首に掛けるようにと言いました。しかし、ナウメの気乗り
のしない様子を感じとった母は、すぐにこう言ったの
です。「まだ幼い頃に、わたしの母や母方の祖母がこの
ネックレスをわたしにくれたのよ。おかげで、わたしもわ
たしの子供たちも皆守られてきたわ。あなたの夫もその
一人よ。この魔よけさえあれば、あなたの娘だって、病気
にならずにすむし、どんなまじないをかけられようと、
守ってもらえるのよ。それに、人生でどんな問題に出会
おうとも、負けずにすむのよ。だから、この子も5歳にな
るまでは、このネックレスをしていないとだめなの。」

その当時、わたしは支部会長として奉仕していたため、
すぐにこう考えました。「わたしの支部の会員たちは、支
部会長の娘の首にこの『魔法の』ネックレスがかかっ
ているのを見たら、どう思うだろうか。」次にわたしはこう考
えました。「あまり目立たないように、何かカバーをして
おけばいいんだ。」ナウメの方を見ると、このプレゼント
を受け取っちゃだめ、と言わんばかりの表情です。わたし
は母に、もっと小さくて薄い、あまり目立たないネック
レスを作ってもらえないか、頼んでみました。そんなこと
はできないし、魔法の品の力を働かせるためには自分が
準備した形が一番だと、母は答えます。

ナウメの方を見ると、改めて、絶対に妥協してはだめ、
という表情がはっきりとうかがえます。わたしは母の方

に向き直り、わたしは地元の会員の集まりで、支部会長
を務めているのだから、子供にそのネックレスをつけさせ
るのは、あまりいい気持ちがないと説明しました。それ
に対する母の答えは警告でした。ネックレスをしない
でいたら、この子は死んでしまうわよ、と言ったのです。

パニックに陥った危機的瞬間

この出来事があってから数週間後、幼いローズマリー
が重い病気になってしまいました。わたしたちには娘を
医者に見せるだけの持ち合わせはありませんでした。夜
でした。そしてその瞬間、わたしは母が警告していた言
葉について考え始めていました。あのネックレスをもらっ
ておけばよかったと考え始めたのです。もらっておいて、
ローズマリーの首に掛けておいてやればよかったと思
いました。しかし、パニックに陥ったこの瞬間、主イエス・
キリストを信ずる信仰を働かせなさいと、静かで小さな
声がわたしの耳にささやくのが聞こえたのです。わたし
は直ちに安息日用の服に着替えました。わたしは娘を腕
に抱えると、神権の祝福を授けたのです。わたしは平安
と慰めを感じました。そして、妻も同じように感じている
ことが分かりました。その直後、ナウメも幼いローズマ
リーもすやすやと眠り始めたのです。娘のローズマリー
は癒やされました。それから数日かけて、娘はゆっくり
と快復していき、やがて完全に健康を取り戻しました。
わたしたちは奇跡を目撃したのです。主はその深い^{あわ}憐れ
みから、わたしに助けの^{みて}御手を差し伸べてくださり、主を
信ずるわたしの信仰を強めてくださったのです。

わたしは感謝をしつつも、少し恥ずかしい思いもして
いました。帰還宣教師であり、当時支部会長も務めてい
たわたしですが、神を信ずる信仰よりも、人がどう言うか
ということの方に気を取られていたからです(モーサヤ
4：9参照)。そうです、わたしが愛し心から慕っている
母でさえ、全てのことを理解していたわけではなかった

のです。単なる帰還宣教師以上の者になる必要が、また単なる支部会長以上の者になる必要がわたしにはありました。わたしは変わる必要があったのです。アルマと同じことを経験する必要があったのです。

大きな変化の瞬間

邪悪なノア王の祭司であったアルマは、預言者アビナダイが心に突き刺さる次のような問いかけをしたとき、おそらく、自分自身のことを細かく吟味したことでしょう。「あなたがたは心を注いで理解しようとしてこなかった。したがって、あなたがたは賢明ではなかった。あなたがたはこの民に何を教えているのか。」(モーサヤ12:27) アルマと同様、わたしも「[自分の]心の中に大きな変化」を生じさせる必要があったのです(アルマ5:12)。

ノア王の宮廷で祭司を務めていたアルマは、特権階級の生活に慣れ親しんでいました。自分の生活に必要な経費を民の税金から受け取っていたのです。権力と名声を併せ持つ地位に甘んじていました。彼は「高慢な、心の高ぶっている……祭司」の一人だったのです(モーサヤ11:5)。しかし、アルマは、救い主がこの世に降臨されることを知ったとき、つまり、その教えや苦しみ、死と復活について、そしてイエス・キリストこそ「世の光であり命であられる。まことに、決して暗くなることのない無窮の光であり、また決して死ぬことのない無窮の命であられる」ことを知ったとき、変わる備えができていました(モーサヤ16:9)。必要とあらば、死をも受け入れる備えができていたのです。

反対者に囲まれ、命の危険にさらされながらも、アルマは、アビナダイを安らかに去らせてくれるよう、勇気をもってノア王に嘆願します。アルマのこの行いは彼の心から出たものでした。彼は主の預言者であるアビナダイを通じて、救い主の愛が自分にも及んでいることを感じていたのです。

わたしの母が、わたしの娘の首にお守りのネックレスをさせようと、それを差し出したとき、わたしが気に掛けたのは、外からどう見

られるかということでした。支部の会員たちがわたしのことをどう思うか、ということをご心配していたのです。自分が「心の中に大きな変化」を完全には経験していなかったことは明らかでした。以来、わたしは、わたしたちの成功や幸福の基本は、わたしたちがどの程度完全に、福音を自分の心の中に喜んで取り入れようとしているかにかかっているということをご認識するようになりました。わたしたちが真の幸福、喜び、そして平安を見いだすためには、「イエス・キリストの純粹な福音が、聖霊の力によって……[わたしたちの]心に深く入り込んでいる必要があります。」¹

あかし 証を述べる機会

このような変化を受けて、あらゆる事柄で、あらゆる場所で、救い主を仰ぎ見るようになる、わたしたちは喜んで人に手を差し伸べられるようになります。アルマは力強い宣教師となり、多くの人々に手を差し伸べて、ノア王のもとから逃げて来た人々の中にキリストの教会を組織しました。

お分かりでしょうか。母がああ魔法のネックレス、いつも自分や子供たちを守ってくれていたと固く信じていたあのネックレスを差し出したとき、わたしは母に福音のことを伝える機会を逃したのです。わたしは、アルマのように、主の御手に使われる器となることができたはずでした。アルマはイエス・キリストの福音を説き、「彼らの心を改めさせ、彼らを深い

わたしは
娘を腕に抱えると、
神権の祝福を
授けたのです。



改心し続ける

「一度ではなく、一生を通じて何度もイエス・キリストへの信仰と福音に対する忠実さを増すことにより、改心し続ける必要があります。」

十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老
「船にとどまり、
つかまっていなさい」
『リアホナ』
2014年11月号, 90





**アルマは、アビナダイを安らかに去らせてくれるよう、
勇気をもってノア王に嘆願しました。**

眠りから覚まされたので、彼らは目覚めて神に従った」のでした（アルマ5：7）。

わたしは、母とのあの時の出来事を思い返すにつけ、もし自分がアルマのように受け答えをしていたら、どんなことが起きていただろうと考えることがあります。母は目覚めて神に従っていたかもしれませんが、母の変化によってわたしのきょうだいたちにも良い影響が生じていたかもしれません。そしてその変化は、わたしのきょうだいの子供たちにも、そしてその子孫たちにも、大きな影響を及ぼしていたかもしれないのです。

アルマの大きな変化は、彼から教えを受けたり、彼の証を聞いたりした人々が感じただけでなく、彼の子供たちやその子孫たちも同じように感じていました。アルマの息子アルマは、ゼラヘムラの地の内外で民に向かって説いていたときに、彼らに、救い主イエス・キリストについて述べた自分の父の証を思い起こすように言いました。

「見よ、わたしはあなたがたに告げることができる。父アルマは、アビダナイの口から告げられた御言葉を信じなかったか。……

父は信じたので、心の中に大きな変化が生じた。」（アルマ5：11－12）

神の御言葉を理解できるように心を注げと教えたアビナダイの勧告がきっかけとなって始まったこの大きな心の変化は、アルマのような若者にとって、人々に手を差し伸べるという業で幸福を味わい、成功を収めるための鍵となるものでした。「そして見よ、父はあなたがたの先祖に御言葉を宣べ伝え、彼らの心の中にも大きな変化が生じた。そして、彼らはへりくだり、まことの生ける神に信頼を寄せた。そして見

よ、彼らは最後まで忠実であったので、救われたのである。」（アルマ5：13）

変わり続ける

若い人々の中には、神の目から御覧になって正しいことと、両親や保護者から喜ばれることとの間で、どちらを選ぶのが悩んでいる人たちがいます。両親や保護者が、福音が真理であることについて、自分たちと意思を共有していない場合、そういうことがあるかもしれません。そのような選択に直面したとき、こう自問してください。「この決断を下すことで、自分の『行いは義

の業であった』と思えるだろうか（アルマ5：16）。そしてまだ『贖いをもたらず愛の歌を歌おう』と感じさせてくれるだろうか。」（アルマ5：26）

もちろんわたしたちは皆、両親に対して愛と敬意を持つ必要はありますが、わたしたちの下す決断は、わたしたちの子供たちや子孫に直接の影響を及ぼすことになるということも知っておく必要があります。わたしたちの中には、アルマのように、居心地の良い場所を去る必要がある人がいるかもしれません。そのアルマは、ノア王の召し使いたちから逃れ、非常に困難な状況の中で福音を教えたのでした。彼は自分の家族だけでなく、他の人々にも変化をもたらしたのです。心の変化を経験するためには、人のことを考え、「神を知らない者たちの幸いのためにも断食し、熱烈に祈るように」することが大切です（アルマ6：6）。

もしわたしたちの幼いローズマリーが病気から快復せずに死んでしまったとしたら、それも娘に神権の祝福を受けた後だったとしたら、どうでしょうか。主のこの訓戒はわたしにとって大きな力です。「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。」（マタイ10：39）

わたしたちは日々の生活の中でイエス・キリストの贖罪しょうざいを実感するとき、心の変化を経験しようとたゆまぬ努力を続けていることに喜びを見いだします。わたしはその知識に感謝しています。そして、自分の心の中で、わたしたちの救い主が「あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである」ということを知っています（アルマ7：11）。わたしは主に心向け、その勧告に従うときに本当の意味での安全と守りがあることを知っています。■

注

1. ヘンリー・B・アイリング, "We Must Raise Our Sights," *Ensign*, 2004年9月号, 16

万歳！

G・クレグ・カイザー

ある4歳の子供のおかげで、わたしは新しい角度から聖餐に感謝するようになりました。

会衆が聖餐の賛美歌を歌い終わるとき、わたしは心を救い主に向けていました。しかし、賛美歌集を閉じて音楽は鳴り続けました。その日は出席者が多く、祭司たちがパンを割き終わるまでオルガン奏者はさらに2小節分演奏する必要がありました。追加の時間があることに、わたしは感謝しました。聖餐の祈りの前に敬虔な気持ちでじっくり瞑想することができからです。

祈りの間、わたしたちのためにささげられたキリストの犠牲のしるしを祝福する祭司たちの言葉をわたしは注意深く聞いていました。最後の祈りが終わり、会衆が賛同の言葉を発した瞬間、わたしの2列後ろにいた4歳の少年の声が「アーメン」の声に混ざって聞こえました。

「万歳！」と彼は叫びました。

とっさに発せられた彼の声は大きく、近くにいる数人の子供がくすくす笑いました。正直なところ、わたしは苦笑いました。

「万歳だって？」とわたしは思いました。聖餐の祈りの受け答えとしては奇妙です。そのような答え方は今まで聞いたことがないし、今後二度と聞くことはないでしょう。わたしたちは祈りを「アーメン」で終えるのですから。

でも、もしかしたらあの幼い子供の方がわたしよりも真理をよく感じ取っているのかもしれない。

「万歳」は歓喜を表す言葉です。喜びを表す叫びであり、たいていは勝利したときに使います。難しい仕事を成し遂げた人を称賛して叫ばれることもあります。¹



そう思った瞬間、わたしはその考えが気に入りました。そうです。わたしたち皆が復活できるようイエス・キリストが死に打ち勝たれたことに万歳！贖罪のおかげで、主がわたしたちの罪をお赦しくださることに万歳！もっと具体的に言うなら、主はわたしの罪をお赦しになる力を持っておられるのです。主の恵みを通して天の御父のもとへ帰って、永遠の命という希望を享受できることに万歳！そのとおり、万歳！

心の中でこのように叫び、天の御父をほめたたえていると、聖霊によって心にあふれるほどの喜びが押し寄せ、涙が出そうになりました。その日、わたしは小さいわらべに導かれ（イザヤ11:6参照）、わたしの人生に注がれる救い主の贖罪の祝福について新しい角度から理解し、喜ぶことができたのです。■

筆者はアメリカ合衆国オレゴン州在住です。

注

1. Merriam Webster's Collegiate Dictionary 第11版(2003年)、「hooray」の項。en.wiktionary.org/wiki/hoorayも参照

わたしの監督下にある間は、決して！

ブレット・J・ポーター

成功の鍵は、愛をもって若い男性に仕えることでした。

親しくしていた家族に、若い男性の年代の息子がいました。彼は執事のときに参加した活動で、指導者から注意され、仲間の前で恥ずかしい思いをしました。その後さらに恥をかかされる出来事があってからは、活動に出なくなり、ワード以外に友人を求めるようになりました。

それはわたしにとって、とてもショッキングな出来事でした。若い男性に関わる責任に召されたら、その責任にある間は、決して、こんなことが起こらないようにしようと、わたしは心に決めました。2年後、わたしは執事とともに働く責任に召されました。

数か月とたたないうちに、何かにつけ羽目を外そうとする若い男性の面倒を見るようになっていました。

目につく行動について、わたしはついにこう言ってしまいました。「もうそれくらいでやめなさい。それ以上はやらないこと。」

彼は言うことを聞かず、ちょっとした口論の後、出て行きました。

後で、わたしは彼と話しました。意見の食い違いを解消するためです。わたしはこう言いました。「デビッド、わたしは君が好きだよ。君は素晴らしい青年だ。でもね、君のしていることの中には、好きになれないものが幾つかある。他の若い男性は、君を指導者として頼りにしているよ。君が不適切なことをしても許されるのを見たら、彼らもそれをしようと思うのでは

ないかな。」

わたしたちの関係は修復されました。彼はわたしたちから受け入れられたと感じたようです。わたしたち指導者は、彼の個人的な試練を幾つか軽くする手伝いをしました。14歳になったとき、彼はわたしから教師の聖任を受けたいと言って来ました。それから何年もたった今、彼は会うたびにわたしを強く抱き締め、すばらしい思い出として、若い男性時代のことを話します。

若い男性を愛し、喜んで一緒に時間を過ごすことです。そうすれば、わたしたちの気持ちは彼らに伝わります。だからこそ、二人の顧問とわたしは、若い男性に心から関心を示しました。



手引きに書かれているからという理由で活動を行ったことは一度もありません。活動を行うのは、若い男性が技術を学び、成長し、楽しい時間を過ごせることが分かっているからです。

ある時期、両親がわたしたちのプログラムに関心を持っていないという若い男性がいました。

わたしはその両親にこう言いました。「関心をお持ちでないのは結構です。でも、息子さんが教会に来て、学び、楽しい時間を過ごすのであれば、かまいませんね。」

わたしたちは彼をこのプログラムに参加させました。やがて彼の両親は全てのプログラムへの参加を許してくれました。息子が学び、楽しんでいる姿を目にしたからです。後に、この若い男性は専任宣教師として奉仕しました。彼の弟も教会の活動に喜んで参加するようになり、伝道に出ました。

わたしたちは、指導者が若い男性に関心を持つことと、若い男性が学び、成長し、最終的には伝道に出ることとの間には相関関係があることを知りました。若い男性が成長していくのを見るのは喜びですし、彼らと一緒に学べるのはうれしいことです。成功の鍵は、愛をもって若い男性に仕えることでした。■

筆者はアメリカ合衆国カリフォルニア州在住です。

誰でも預言者から学ぶことができる

わたしは17歳の頃、アメリカ合衆国ハワイ州カイルア・コーナのホテルで働いていました。ペルボーイだったわたしは、ジョン・ウェインやドロシー・ラムール、エスター・ウィリアムズなど、数々の有名人が客としてホテルを訪れるのを見ました。

ある晩、ほとんどの客が到着してしまっただけで、わたしがホテルの前で休憩していると、1台の黒いリムジンが縁石の所に止まり、7人の男性が降りてきました。黒いズボンに白のワイシャツ、それにネクタイを締めています。この男性たちに続いてもう一人、黒いスーツの男性が車を降りました。運転手が駐車すると、全員が食堂に向かいました。わたしは、FBIの捜査官みたいだと思いながら中に戻り、ルームサービスの呼び出しに応える仕事を続けました。

1時間ほどたった頃、わたしがホテルの外でたばこを吸っていると、先ほど見たあの男の人たちが出てきて、縁石の所で待っていたリムジンに戻りました。彼らは通路を歩いて車の所に行き、後部座席のドアを開けて黒スーツの男性を乗せようとしていました。ところが、黒スーツの男性は、車に乗らずに立ち止まって振り返り、建物に寄りかかっているわたしを見ると、わたしに向かって歩いてきたのです。

背が高く細身で、細い縁のメガネを掛け、あごひげを蓄えていました。その男性は手を差し出してわたしと握手すると、左手をわたしの肩に置いたのです。こんなに優しい物腰の立派な身なりをした男性が、わたしのような見も知らぬ若者に話しに来たので、わたしは驚きました。

わたしの吸っているたばこを指し

て、「これは君の体に良くない」と言ったこと以外は、その人の言った言葉は覚えていません。優しい物腰が、とても印象的でした。

1年後、わたしは宣教師から教えを受けてバプテスマを受けました。

教会の指導者の写真を眺めていて、ジョージ・アルバート・スミス大管長（1870 - 1951年）の写真が目に残りました。ホテルの前で出会ったあの優しい物腰の立派な身なりをした男性は彼だったということが、すぐに分かりました。教会の大管長が、教会員でもなく、特に重要な人物でもないわたしのような者に、あんな言葉を

掛けてくれたということが分かって、さらに深い感銘を受けました。

目立たない職種で働いている年端も行かない少年、福音も天の御父の愛も知らない少年にあのように愛と関心を示してくれるとは、何と偉大な人なのでしょう。

あれから65年たち、わたしはあのときの心遣いと愛がよく理解できるようになりました。スミス大管長がわたしに目を留めてくれたように、わたしも周囲の人に目を向けるよう努力しています。■

ヘンリー・シリオン・シニア
（アメリカ合衆国、ハワイ州）

黒スーツの男性は車には乗らずに立ち止まると、わたしに向かって歩いてきたのです。



それに本当に価値があるのだろうか

4 歳になる息子のコールトンが初等協会の先生からもらった紙片を誇らしげに差し出しました。それには今度行われる初等協会のプログラムでの息子の役割が詳細に書かれていました。わたしたちの役割は、2週間後に行われるそのプログラムに間に合うように、息子にその短いせりふを覚えさせることでした。

月曜日の夜、わたしたちは家庭の夕べを全面的にリハーサルに変えました。コールトンは、満面の笑みを浮かべながら、何度も何度も練習を重ね、妻とわたしはその都度、「言うときには真面目にね」とか「もっとはっきり言ってごらん」などと助言を与えました。

いろいろと努力をしてみたものの、始めたときに比べて少しは進歩が見られたものかどうか、わたしも確信が持てませんでした。

次の日曜日の朝、わたしたちは、片方が見つからない靴下2足、乳歯の生えかけた8か月の赤ん坊、そして泣き叫ぶ4歳の子に四苦八苦しなごら教会へ行く準備をしました。

集会が始まって、開会の賛美歌が終わらないうちに、わたしは泣き叫ぶ子供を抱えて、廊下まで2度も往復

しなければならない有り様でした。聖歌隊が立って歌い始める頃には、家族として教化される経験をしようなどという望みは既に諦めかけていました。ただ集会の終わるのをひたすら待ち望んでいたのです。

最後のアーメンを言うと、疲れ果てたわたしは思わず、ほっとため息をもらしました。どうやら最後まで持ちこたえられたと「勝利」を祝ってはみたものの、わたしはこう考えざるを得ませんでした。「これに本当に価値があるのだろうか。子供たちを毎週教会に連れて来ることで、子供たちに何らかの進歩が見られるのだろうか。」

そのとき、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の言葉が心に浮かびました。長老はこう言っています。「義にかなった習慣を築こうと必死になって取り組んでも、期待している霊的な実がなかなか刈り取れないように思い、妻もわたしも、腹を立ててしまうことがありました。……

妻とわたしは、特定のレッスンの内容や聖句を理解させなければいけないと考えていました。しかし、そのような目標は、一緒に勉強し、祈り、学ぶたびに達成できるわけではありません。目標と努力が一貫していることこ

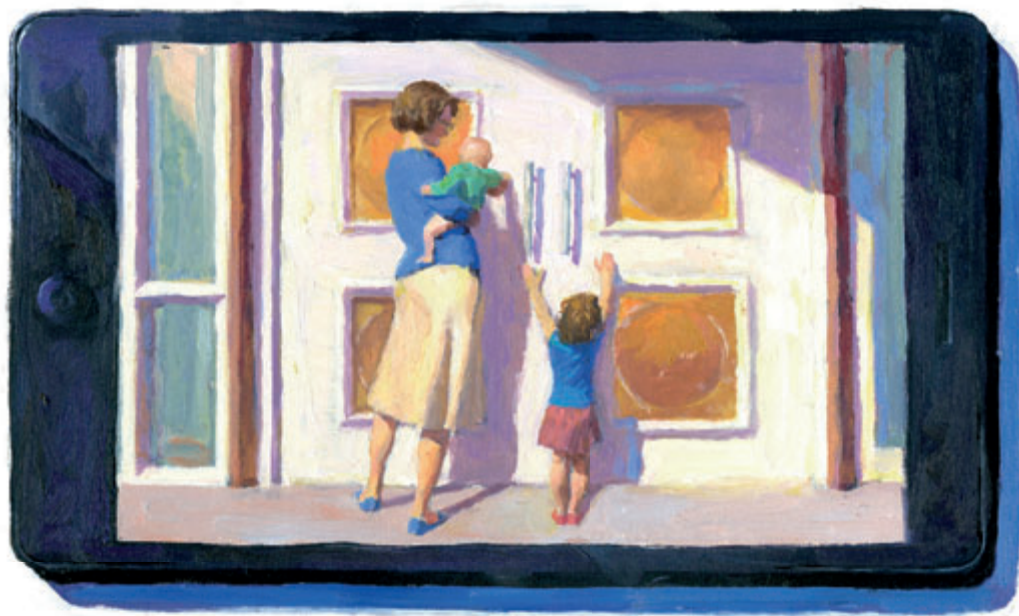
そ、おそらく最高のレッスンだったのです。そのことを当時のわたしたちは十分理解していませんでした。」(「家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わる」『リアホナ』2009年11月号、19)

自信を取り戻したわたしは、家に帰ると、息子と一緒に何度も何度もあのせりふの練習を続けました。そしてプログラムで息子のせりふの順番が来たとき、わたしたちは彼がはっきりと自信を持って、「イエス・キリストは神の御子です」と宣言するのを聞き、感動しました。

それまで何度も息子が同じせりふを言うのを聞いてきましたが、息子が、家の外で、しかも自分の力で言うのを聞くのは、何か格別で、はるかに満足できるものでした。

この幼い息子が成長するまで、教えるなければならないことが山ほどあります。しかし、わたしたちは最善を尽くして、集会に出席し、家庭の夕べを開き、毎日祈りをささげていくつもりです。いつの日か、息子が家を離れて自立するとき、「イエス・キリストは神の御子です」という、あの大切なせりふを改めて思い出してくれることを願いながら。■

ブランドン・コムストック
(アメリカ合衆国、ユタ州)



キ ャリーは
子供たちを
神殿に連れて行きたくて
たまらなくなりました。
神殿に触らせたいと
思ったのです。

神殿の御霊を感じる

合衆国ネバダ州ラスベガスに住む娘のキャリーを訪問する機会がありました。娘は当時、二人の子供を連れて夫とともにそこに引っ越したばかりでした。キャリーのワードでは集会在正午からだったので、ゆったりとすてきな朝の時間を過ごすことができました。その間、教会に行く準備をしたり、教会の終了後にどんなことをするか話し合ったりすることができました。キャリーはそれまで神殿を訪問する機会がなかったので、神殿に行き、神殿の敷地内で子供たちの写真を何枚か撮ることにしました。

どの神殿もそうですが、ネバダ州ラスベガス神殿の敷地も美しく、美しい噴水や花があり、管理が行き届いています。

トーマス・S・モンソン大管長が採り上げている話を読むと、キャリーは子供たちを神殿に連れて行きたくてたまらなくなりました。神殿に触らせたいと思ったのです（『平和を見いだす』『リアホナ』2004年3月号、5参照）。キャリーは、まず娘のステラに、神殿

がどれほど神聖で、大切かを説明しました。

3歳の子供なら誰でもそうですが、ステラもよく理解してくれました。わたしたちは彼女に神殿に触るよう強く勧めました。わたしたちはステラと生後3か月の弟が神殿に触っているところを写真に撮りました。

帰る時間になっても、特に、ステラはそこを離れたがりませんでした。わたしたちはその理由が分かるような気がしました。美しい場所ですばらしい時間を過ごし、きっとわたしたちと同じ御霊を感じていたのです。

ステラを車に乗せてシートベルトを締め、わたしたちは帰途に就きました。わたしは振り返って手を振り、ステラにこう言いました。「神殿さん、バイバイって言おうね。」彼女は神殿を見て、手を振り、こう言いました。「神殿さん、バイバイ。おじいちゃん、バイバイ。」聞き間違えたかと思いましたが、振り返ってキャリーを見ると、目に涙をためています。キャリーも同じ言葉を聞いたのです。

ステラのおじいさん、つまりわたしの夫ティムは、ステラが生まれる4年前に亡くなっています。ステラは、夫の写真を見ましたし、家族が彼について話すのを聞いたことがあるはずです。しかし、その日、わたしたちの会話には彼のことはまったく出ませんでした。

ティムが亡くなったとき、孫は一人だけでした。現在、わたしたちには12人の孫がいます。天の御父のもとを最近離れたばかりの生まれたての赤ちゃんを抱くたびに、わたしはこう尋ねたくなります。「おじいちゃんに会えたの？ あなたを送り出すときに、おじいちゃんはどうなアドバイスをしてくれたの？」

神殿の神聖さについてのわたしの証は、その日さらに強くなりました。小さな子供たちは神殿の中に入れてあげられないかもしれませんが、ドアの所まで連れて行って、そこに触れさせることはできます。数え切れないほど多くのふさわしい会員たちが、主の宮に入るために使ったそのドアに。■

キャシー・ロシエール
（アメリカ合衆国、カリフォルニア州）

自分にとって一番大切なこと

大学に入って3年目の半ばに、わたしは家賃と光熱費のためにためていたお金が夏の終わりまで持ちそうにないことに気づきました。次の学期の支払いのために働くよい機会だったので、店員のアルバイトを見つけました。

全て順調だったのですが、ある日、仕事のスケジュールが変わり、日曜日にも働かなければならなくなりました。面接のとき、日曜日に働けないとは言いませんでした。当時、店は日曜が定休日だったからです。けれども、仕事は大切でしたし、気に入ってもしました。友人が同じ店で働いていたので、月に2回は日曜日に休めるよう、交代で日曜勤務をこなすことにしました。そうすることで、出席できる集会もあり、召しを果たすこともできました。

しかし、やがてこのスケジュールには無理があることが分かりました。実のところ、毎週日曜日働いていなくても、日曜日の責任を十分果たせていないと感じていたのです。状況を変えるにはどうしたらよいか、自問し始めました。上司の心を和らげる方法を願い求めて祈った後で、ニーファイ第一書第7章を読みました。19節を読んだことを覚えています。ニーファイが祈った後に兄たちの心が和らいだと記されています。ようやく雇用主に会い、日曜日に働かないことについて言うことができました。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だと言うと、上司は末日聖徒の信条について質問しました。日曜日に休ませてもらいたいとお願いすると、だめだという答えが返ってきました。最初

の面接のときに、何曜日でも働けると言ったこと、そして宗教的な必要について何も言わなかったことを指摘されました。

そのまま数か月が過ぎたある日曜日、わたしは教会の集会が終わると、急いで仕事に向かいました。そして、「あなたにとって一番大切なものは何か」と自問しました。答えは即答で、間違えようがありませんでした。教会、福音、召しを果たすこと、日曜日の集会に真心を込めて出席すること、そして言葉と行いにおいて善き弟子であることです。

わたしは日曜日に休ませてもらえるよう、もう一度お願いすることにしました。そして今度は、再び断られたときのために辞表を手にしてお願いすることにしたのです。

ある日曜日、わたしは教会の集会が終わると、急いで仕事に向かいました。そして、「あなたにとって一番大切なものは何か」と自問しました。

それまで祈り、断食し、友人から励ましの携帯メールをもらっていました。

話し合いに臨んだとき、胸がどきどきしてはいましたが、気持ちは落ち着いていました。正しいことをしていると知っていたからです。今度は、上司は認めてくれました。祈りがこたえられたのです。アパートに帰るやいなや、わたしは辞表を破り捨てました。

この経験から多くの祝福を頂きましたが、即座に与えられた最も具体的な祝福は、仕事を続けながら、安息日^{きよ}を聖く守ることができたことです。そのことを、主に心から感謝しています。■

エレオノラ・ソネリーニ (イタリア、トリエステ)



七十人
デビッド・F・
エバンズ長老

不屈の精神と 弟子の務め

あるオンライン辞典で、**不屈**は「貫き通すこと、根気、断固たる決断力」と定義されています。また、「不屈とは、途中でやめようとしなない人、すなわち自分の目標に到達するまで努力し続ける人が示す特質である」とも述べられています。¹

救い主のまことの弟子となり、本当の善なる目標を達成するためには、不屈の精神が必要です。偉大な宣教師になること、教育課程を修了すること、永遠の伴侶を見つけること、家庭を築くことなど、わたしたちが永遠に備えるためにそれらの目標を達成する必要があることを天の御父は御存じです。全ての善い事柄に不屈の精神をもって取り組む能力によって、わたしたちが神の息子や娘になれるかが決まります。神はわたしたちがそうなれること、そうならなければならないことを知っておられます。

今日の専任宣教師は「教会史上最高の宣教師」と言われており、ヒラマンの2千人の若い戦士と対比されています。² これらの若者の並外れた特質と不屈の信仰と努力があったにもかかわらず、彼らの指導者であったヒラマンはこう述べています。「わ

たしの二千六十人の兵のうち、二百人が失血のために意識を失っていました。にもかかわらず、神の慈しみによってだれ一人死なずに済んだことは、わたしたちにとってまったく驚きであり、またわたしたち全軍の喜びでもありました。彼らの中には傷をたくさん負わなかった者は一人もいませんでした。」(アルマ 57:25)

彼らが救われたのは、「信じるように教えられたことを深く信じていたので、すなわち、公正な神がましますこと、疑わない者はだれでも神の驚くべき力によって守られるということを深く信じていた」からでした(アルマ 57:26)。

ヒラマンはこれらの若者についてこう言っています。「彼らは若いながらも考えはしっかりしていて、絶えず神に頼っています。」(アルマ 57:27)

わたしたちもそうでなければなりません。人生において、雨が降り、洪水が起こり、風が吹いてわたしたちやわたしたちの家に打ちつけるとき、自分の信仰が強いかどうか、また自分が絶えず神を信頼する者であるかどうか分かります。逆境に遭って初めて試されるということです。

神と神の約束を
信じる信仰を持ち、
誰に知られなくても
常に正しいことを行う。

落胆しない

何年前に、妻のメアリーとわたしは日本名古屋伝道部を管理しました。2千人の若い戦士について述べられている、**非常に勇敢、体力、活力、誠実**という言葉(アルマ 53:20 参照)は、わたしたちとともに奉仕した宣教師にも当てはまります。2千人の若い戦士の中には**意識を失っていた者**もいたと述べられていますが(アルマ 57:25 参照)、わたしたちの宣教師の中にも、**気力を失っている人**たちがいました。

伝道は簡単ではありません。人生



も簡単ではありません。全ての人が何らかの傷を負います。未解決の罪で傷を負っている人もいれば、事故や病気で傷を負っている人もおり、愛する人がイエス・キリストの福音を拒んだり、真実であると知っていることに不誠実になったりしているのを見て傷を負っている人もいます。しかし、このようなことの全てを通して、わたしたちは神を知るようになり、また成長して救い主の弟子になるのです。わたしたちの心は変わります。そして、罪や不信ではなく義を選び続けるときに、その変化は永久に続きます。

あの2千人の若い戦士は、心の中に不屈の精神を持っていました。彼らの道が困難であったときでさえ、絶対に諦めませんでした。彼らの父親や母親の世代は、アンモンとその兄弟たちから教えを受けました。その宣教師たちは大きな成功を収めましたが、彼らもまた、伝道が困難で落胆しそうになったときに踏みとどまり、諦めませんでした。

アンモンは当時のことをこう述べています。「わたしたちが意気消沈して、まさに引き返そうとしたときに、見よ、主はわたしたちを慰め、『あなたがたの同胞であるレーマン人の中に行き、忍耐して苦難に耐えなさい。そうすれば、あなたがたに成功を得させよう』と言われた。」(アルマ 26:27)

忍耐と不屈の精神をもって、アンモンと同僚たちは、苦難を克服し、最終的にすばらしい成功を収めたのです。

福音に対する不屈の精神

1999年に、マーシー・バー姉妹が、アメリカ合衆国オハイオ州コロンバスから日本名古屋伝道部にやって

来ました。彼女にとって日本語は簡単ではありませんでしたが、不屈の精神をもって努力しました。会話ができるようになると、絶え間なく福音について人々に話し続けました。

愛をもって大胆に口を開き、主が定められた方法で勢力を尽くして働く、忠実な、根気強い、不屈の宣教師には、大いなる約束が与えられています(教義と聖約 31:7 参照)。ところが、拒まれることを恐れるようになり、その恐れあまり愛のこもった大胆さを失ってしまう宣教師もいます。

バー姉妹はそうではありませんでした。見つけ、教え、そして伝道中ずつと教え、見つけました。

伝道の最終日に、バー姉妹は、名古屋の伝道本部に向かっていた。その夜、わたしは彼女を面接し、すばらしい働きをしてきたと伝えるつもりでいました。翌日、彼女は故郷へと戻るのでした。

彼女は伝道本部に来る途中、地下鉄の電車の中でおしゃべりをしている女子高生のグループを見かけ、近づいて行き、話をしようかどうか尋ねました。そして、福音とその回復について話しました。それから、関心があると思われる一人に伝道パンフレットを渡し、福音を教えることができる姉妹宣教師のことを伝えました。

その後、バー姉妹は伝道本部に来て、面接を受けましたが、地下鉄での経験についてはわたしに何も言いませんでした。彼女にとって、それは大したことではなかったのです。彼女は正しいと知っていることを最後の最後まで行っただけなのです。わたしが知っている、福音に対する**不屈の精神**を最も良く定義づけるのはおそらく

次の言葉でしょう。「どんなことがあっても、神と神の約束を信じる信仰を持ち続け、誰に知られなくても常に正しいことを行う」ことです。

バー姉妹はコロンバスに帰郷し、その学生ワードで将来の夫に出会いました。

地下鉄の少女、北山ひとみさんは、姉妹宣教師から教えを受けました。ひとみさんは福音の真理を受け入れたときに、家族からの反対と自分の疑いの気持ちを克服し、途中で諦めることなく、彼女自身の不屈の精神を示しました。

わたしたちはおよそ6年後に東京の宣教師大会でひとみさんに会いました。彼女がそこで宣教師として奉仕していました。彼女は、地下鉄でバー姉妹に会ったこと、そして後に福音に改宗したことを話してくれました。

伝道後、彼女は帰還宣教師の山下心平兄弟に出会って結婚し、ともにイエス・キリストの福音の中で子供を育てています。興味深いことに、心平





さらに 自制しようと 努める

「年齢を問わず全ての
の人々に申し上げたいのは、目標や目的
をもう一度見直し、さらに自制しようと
努める必要があるということです。わた
したちの日々の行いや選択は、目標と
一致したものでなければなりません。」

十二使徒定員会 クエンティン・L・クック長老
「賢明に選ぶ」『リアホナ』2014年11月号, 49

兄弟は、わたしが日本で初めて伝道した
1971年の夏にランディ・チェケツ
長老と教えた人の息子でした。

正しいことを行う不屈の精神が必
要なのは、福音を広めるときだけでは
ありません。個人的な罪や誘惑に打ち
勝ち、教育課程を修了し、神殿結婚
をして永遠の家族を築こうとするとき
も、この同じ義にかなった不屈の精神
が必要です。配偶者と子供たちを
しっかりと支え、全ての結婚生活と家
族に生じる困難な問題を克服するとき
に、不屈の精神と愛、立ち直る力が必
要です。また、わたしたちの求める祝
福が期待している時期に与えられない
ときにも、不屈の精神と決意、忍耐が
必要です。

この全てにおいて、またその他の義
にかなった事柄の全てにおいて、正し
いことを行い、正しくあるとするわた
したちの決意がこの世で試されている
のです。しかし、わたしたちは途中で
やめてはなりません。目標を達成
するまで、努力し続ける必要があり
ます。わたしたちの目標は、最終的

に、夫や妻、子供たち、将来の世代の
子孫とともに永遠の命を受けること
なのです。

ふさわしい目標を設定する

正しいことを行う決意をどのように
固めているでしょうか。どうすれば決
意したことを守る強さを得られるで
しょうか。

まず、達成するのにふさわしく、か
つ永遠の命という究極の目標にかな
う目標を設定します。これには、教育
の目標と職業の目標が含まれます。
これらの目標は、家族、個人の成長、
奉仕、教会における活動、個人の幸福
に通じるものであり、それらにかなう
ものです。これらの目標を設定する
のは、部分的には自分自身の個人的
な選りですが、別の部分では祈りと個
人的な啓示がなければなりません。
あなたがしっかりと神の御心^{みこころ}を求めよ
うとするならば、神はこたえてくださ
います。

あなたが祈るべき多くの事柄の中
で大切なのは、ともに神殿に行って神
聖な聖約を交わすことのできるふさわ
しい伴侶を見つけることです。神聖
な聖約を交わして、それを守りたいと
思うなら、そして自分の最も義に
かなった目標を達成したいという強い望
みがあるなら、よく祈って結婚の祝福
と責任を求めてください。

このことで、またあなたの人生の別
の事柄において、神があなたに何をし
てほしいと思っておられるかを知っ
てください。それをよく思い計ってくだ
さい。自分なりの決断を下し、それを
主のもとへ持って行き、確認を受けま
す。その後、あなたの目標を達成する
ように努めてください。

この全てにおいて、義にかなった事
柄に不屈の精神をもって携わろうとす
るなら、義にかなった生活をして主に
近づくようにしなければなりません。
御霊^{みたま}の祝福を受けるのにふさわしくな
い生活をする以上、義にかなっ
た目標の達成からあなたの気をそら
すものはほとんどないでしょう。

義にかなった目標を定めてください。
常に祈り、主の導きを求めてください。
ふさわしくあり、あなたの成長から気
をそらしたり、成長を妨げたりするも
のを避けてください。神殿推薦状を
持ち、使ってください。聖約を守っ
てください。特に困難な問題に直面す
るときに、聖約を守ってください。永
遠の結婚と家族の祝福を求め、その
後、求め続けてください。諦めないで
ください。途中でやめないでください。

全ての義にかなった事柄に不屈の
精神をもって携わってください。信仰
が強められることが分かるでしょう。
信仰が増すときに、長所と才能が伸ば
され、発揮されることが分かるでしょ
う。また、十二使徒定員会のジェフ
リー・R・ホランド長老が約束した
次の言葉を覚えておいてください。
「祝福はすぐに来ることも、後から来
ることも、また天に召されるまで来な
いこともあります。イエス・キリスト
の福音を頂く人には必ず来ます。」³ ■

2014年11月4日にブリガム・ヤング大学で行われ
たディボーションアルでの話「不屈の精神」(“Tenacity”)
から。全文〔英語〕は speeches.byu.edu からご覧
いただけます。

注

1. Vocabulary.com/dictionary/tenacity
2. M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出す
る時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年
11月号, 47, 48 参照。モルモン書ではどのよう
に述べられているかについては、アルマ53:
17-21; 56:17, 45-48; 57:20-21を参照
3. ジェフリー・R・ホランド「すでに現れた祝福の
大祭司」『リアホナ』2000年1月号, 45

安息日の擁護者

サマンサ・マクファディン

ラグビーのコーチが選手たちに全米選手権の準決勝の試合が日曜日になったと発表したとき、わたしは「今になってどうして?」としか考えられませんでした。

わたしのチーム、2010年度ブリガム・ヤング大学女子ラグビーチームは、シーズン中ずっと選手権に向けて準備をしてきました。前の年に選手権のトーナメントで負けた相手チームと対戦するのを楽しみにしていました。勝つ自信がありました。チームには全国で最高の選手が何人もいたからです。わたしたちは全米選手権を制してラグビー界に自分たちの力量を証明したいと思っていたのですが、天の御父は別の道を備えておられたのでした。

標準を固く守る


わたしたちの試合を金曜日と土曜日に組むと選手権の役員から確約されていたにもかかわらず、手違いで、土曜日と日曜日に設定されてしまったのです。この手違いに気づいたのはトーナメントの5日前のことでした。選手権はアメリカ合衆国フロリダ州

サンフォードで開催されることになっていました。当時女子ラグビーはBYUの公式チームではなかったため、試合をするかどうかの決断はチームに任されていました。わたしたちは試合をしないことを選びました。その決断は満場一致で、誰一人不平を言う者はいませんでした。

日曜日に試合をするなんて、選択肢にも入っていなかったのです。わたしにとっては、ずっとそうでした。両親に安息日を聖く保つよう教えられ、ずっとその戒めを尊んできたのです。天の御父の戒めに従うのは、ラグビーの試合より大切でした。

しかし、正しいことをしていると知っていても、つらい気持ちに変わりはありませんでした。勝っても負けても土曜日が最後の試合と知りつつフロリダに向かう飛行機の中で、わたしたちはがっかりしていました。

フロリダに着くと、わたしたちのストーリーを取材したいという「ニューヨーク・タイムズ」(New York Times)の記者から電話がありました。わたしたちはあぜんとなりました。安息日を尊ぶというわたしたちの選びに関心を持つ人などいないと思っていました



安息日を聖く保つという
わたしたちの選択が、
あれほど多くの人に
影響を与えることになろうとは
想像もしていませんでした。

し、ましてや全国紙が関心を示すなど思いも寄らなかったからです。

スケジュール作成の手違いがなければ試合があったはずの金曜日、わたしたちはフロリダ州オーランド神殿に行き、死者のためのバプステマを行いました。儀式の執行が終わると、神殿会長から話がありました。会長はわたしたちに関する記事を取り出し、ホームページに投稿された、わたしたちの決断を支持する読者のコメントを幾つか読んでくれました。

後で、コーチも自分に届いたコメントを読んできました。末日聖徒もそうでない人々も、わたしたちの模範に



感謝し、自分の標準を貫く姿が新鮮だったと言ってくれたのです。そんな言葉に、わたしたちは元気づけられました。全米チャンピオンにならなくても大きな影響を及ぼすことができるのだと、そのとき初めて気づきました。

天の御父がわたしたちの状況を御存じなのは知っていましたが、他の人たちが見守ってくれているなんて思ってもみなかったのです。わたしたちの決断に対する反響のおかげで、フロリダにいることに新たな目的ができました。勝つためではありません。標準を擁護するためです。

より良い道

土曜日がやって来て、わたしたちは46対7で試合に勝ちました。試合後、わたしたちは役員の方へ行き、日曜日に予定されている試合を棄権することを通告しました。その試合の対戦相手はたまたま、前年わたしたちが負けたチームでした。そのような形でシーズンが終わったことになりましたし、そのチームと対戦できていたらと思います。安息日には、そのチームを含め、どんなチームとも試合



安息日を尊ぶ

「救い主は御自分のことを安息日の主と呼ばれました。安息日は主の日です。繰り返し、救い主は安息日を守るように、あるいは安息日を聖別するように、求めてられました。わたしたちはそうすることを聖約しているのです。

……〔わたしたちは〕こう自問するだけ〔です〕。『自分は神にどんなしるしを差し出そうとしているだろうか。』この質問は安息日についての選びをきわめて明確にしました。……

わたしたちは、どこに住んでいても自分の家族や隣人、友人の中で信者の模範にならなければならないことを知っています。まことの信者は安息日を聖く保ちます。」

十二使徒定員会会長 ラッセル・M・ネルソン会長
「安息日は喜びの日」
『リアホナ』2015年5月号, 129 - 130, 132

をしたいとは思いませんでした。

わたしたちについて多くの記事が書かれ、引き続き励ましの手紙や電子メールが寄せられました。標準を守ること、わたしたちは選手権で優勝してもできなかったほど多くの人々に影響を及ぼすことができたのです。

わたしは天の御父を信頼することで、自分では考えもしなかった、より良い道に導かれることを学びました。わたしのチームは選手権に勝利して自分たちの実力を証明したいと望んでいたのですが、天の御父は全く違うことを証明するよう望んでおられたのです。御父は、わたしたちが誰も見ていないと思ったときに模範となる機会に導いてくださり、従順になることを選んだわたしたちを良い目的のために使うことがおできになったのです。■
筆者はアメリカ合衆国ワシントン州在住です。



写真/女子クーララグビーチーム (BYU) とボール・マイヤーズの厚意により掲載

宣教師として 最も難しいこと

伝道活動で一番難しいことが、伝道活動でない場合があります。

ウェンディー・ウルリヒ博士

以前、ある宣教師がこう言いました。「伝道は大変だとみんなから言われて、寒さや、生活の大変さ、外国語を覚える苦勞などを想像していました。でも、自分にとって一番難しかったのは、よい状況や悪い状況、拒絶や変化に対応する中で、落胆したり、同僚にいらいらしたり、知らない人に話しかけたくなくなったりという心の葛藤でした。」

伝道の準備をする際『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を読んだり、聖文を研究したり、料理や洗濯の仕方を習ったりすることができますし、そうする必要があります。しかし、**情緒的、社会的、その他**のスキルを伸ばすための実際的な経験を今から積むことも必要です。必要なスキルのリストは以下のとおりです。一つか二つ選んで、今から実践し始めてみてください。

引け目を感じることなく、謙遜になるスキル

アメリカ合衆国アラバマ州の姉妹宣教師がこう言いました。「宣教師として召されたら、超能力が手に入ると思っていました。だから、伝道地に到着しても自分自身は何も変わっていないことに気づいて、ちょっとショックでした。前と同じように、弱さと恐れと足りないところを持ったままでした。それらは、いまだに自分の中にあります。主の業に働くうえで足りないところがある自分とどう折り合いをつけていくかを学ばなければなりませんでした。」

伝道に出るとき、その前に多くの成功体験を重ねたうえで行くか、ほとんどない状況で行くかにかかわらず、謙遜で、教えを受ける姿勢があり、挑戦し、働き続けようという気持ちがあるなら、主は皆さんとともに働くことがおできに

るのです。伝道のスキルは、皆さんが練習し、質問し、助けを得、努力を続けて初めて向上します。伝道活動や外国語や証や人との関係について、もともと上手にできる人と、もともと苦手な人がいるのだと信じ込んでいたら、もっと苦勞するでしょう。

ある宣教師がこう言いました。「これはわたしの業ではなく、主の業だということを学ぶ必要がありました。わたしは**実際に**不十分なので、自分が不十分だと感じてよいのです。神だけがおできになることを、わたしが十分にできるようになることは決してないでしょう。改善するためにできることはたくさんありますが、それを自分だけで考えて実行する必要はないのです。わたしは主に頼ることができます。」



新しいこと、難しいことに挑戦してください。そうすれば、自分の不十分さについて、深刻に考えすぎることはなくなるでしょう。例えば――

- 自分にとって快適な範囲から少し踏み出してみましょう。新しい仕事や、課外活動、あまりよく知らないクラスなどに挑戦してみるのです。質問し、助けを求め、間違いを分析し、努力を続けてください。努力することで改善していけると信じられるように、練習や努力の必要なことを始めてください。
- 人は生まれながらに才能や知性や社会的なスキルを持っているか否かのどちらかだという心の声に、そうではないと反論してください。世界一のスポーツ選手や音楽家や学者と同じように、宣教師も、多くの失敗を経験し、何時間も練習し、訓練して成功への道を切り開くものなのです。



拒絶される可能性(実際に拒絶されること)に立ち向かうスキル

伝道中、拒絶されること、落胆することは、日常的に経験する状況です。リスクがあっても挑戦することや、拒絶されることに立ち向かう練習をしていけば、無理なくもっと上手に対処できるようになるでしょう。

- 新しい仕事に応募したり、面接を受けたり、パートや正社員として働いてみましょう。
- スポーツチームや、演劇に挑戦してみましょう。
- 誰かをデートや活動に誘ってみましょう。
- 物事がうまくいかないとき、どんな思いを抱き、どんな行動をすれば気持ちが楽になり、それを乗り越えることができるか、考えてみましょう。
- 失敗から学び、もう一度挑戦してみましょう。

やる気を起こすスキル

わたしたちは皆、退屈なときにやる気を起こす方法や、ストレスで押しつぶれそうなときに自分を落ち着かせる方法を見つける必要があります。

- 状況が退屈に思えるときや、進展がないときは、何が問題か、どうすれば解決できるかに興味を見だし、楽しんだり、何か学べたりすることはないか考えてください。
- ストレスがたまっていることに気づいたら、伝道中でもできるような心を落ち着ける事柄(誰かと話す、リラックスする、文章に書く、歌う、歩く)を学んでください。一步後ろに退いて、問題を細かく分けて考え、他の人々にも関わってもらい、小さな段階を踏んで、祈り、否定的な心の声に反論してください。

違いに対処するスキル

同僚や指導者、会員や求道者がどれほどすばらしい人々であっても、あなたの忍耐が試されることがあるでしょう。

きょうだいや友達と関わる時、以下の事柄を訓練しましょう。

- 相手の行動について、なぜそうするのかを尋ねることによって、相手をよく理解できるように努めましょう。
- そのようなつもりはなくても、自分の行動で誰かを傷つけてしまったとき、その責任を認め、誠実に謝りましょう。
- 相手の行動に対して、思いやりのある説明を見つけましょう。苦々しい思いを抱かないようにしましょう。
- 非難したり、いらいらしたりする代わりに、問題があることを伝え、助けを求めて解決を図りましょう。
- 対立が生じたら、静かな声で語り、相手の感情を尊重していることを示しましょう。
- 自分と違うタイプの人と、ルームメイトになりましょう。相手の好みに対して肯定的に受け止め、関心を持ちましょう。



会話のスキル

あなたが内向的であっても外交的であっても、伝道地でも一生にわたっても必要な、良い会話のスキルを学ぶことができます。

あなたが内向的な場合は――

- 毎週5分、話したことがない人(特によく知らない大人の)と話すとこの目標を立てましょう。
- 笑顔で、人に関心を持って、相手が話しやすいような、よい質問ができるようになりましょう。
- 会話の始め方や、失礼のない会話の終わらせ方を考えましょう。
- 相手が会話を始めようとしている様子に気づき、心を開き、相手の言葉に反応しましょう。

あなたが外交的な場合は――

- 質問することによって、相手の考えやさまざまな面を引き出しましょう。
- 良い聞き手になれるように訓練しましょう。
- あなたの話を聞いている人の、疲れている様子に気づきましょう。相手に間を与えましょう。

身体的な健康を維持するためのスキル

夫は伝道部会長として、非常に落ち込んで大変な思いをしている宣教師と話したことがありました。夫は、質問した方がよいという気持ちを感じて、こう尋ねました。「長老、朝食には何を食べましたか。」

「アイスクリームです。」

「昼食には何を食べましたか。」

「フライドポテトです。」

「夕食には何を食べましたか。」

「フライドポテトとアイスクリームです。」

「フライドポテトとアイスクリームだけの食事をどのくらい続けているのですか。」

「約1か月です。」

「いいですか。これがあなたのやるべきことです。家に帰って緑のものを食べてください。ただし、ミントアイスクリームはだめですよ。」

食べ物や運動は、人生に対する感じ方に大きく影響を与えます。以下のことを、今、始めてください。

- 栄養について学んでください。健康な食事をしてください。好き嫌いが多い場合は、食べたことがないものに幾つか挑戦してみてください。
- 運動をしてください。定期的に運動すると、不安やうつをいっそう抑えることができます。小さなことから始めて、ゆっくり進めていってください。例えば、夜ウォーキングをしたり(友達と歩いたり、音楽を聞きながら歩いたり)、テレビのコマーシャルの間にその場で足踏みをしたり、腹筋や腕立て伏せをしてください。
- 持ち物、衣類、お金、時間を、もっと大切にするようにしてください。
- 睡眠を整えましょう。すぐに寝つけなかったり、なかなか起きられなかったりするときは、周りの人に対策を尋ねてください。宣教師と同じような時間に寝たり起きたりできるような習慣を身につけましょう。





前向きに考えるスキル

- ユーモアのセンスを身につけましょう。人のことではなく、自分のことを笑い飛ばしましょう。ストレスがたまってしまうので、全てをあまり真剣に考え過ぎないようにしましょう。
- 帰還宣教師に、伝道中大変だったことや、それをどう乗り越えたかを教えてもらいましょう。その中から自分も使えそうなアイデアを見つけましょう。
- 自分を高め、信仰を強めてくれる聖文や賛美歌のリストを作りましょう。
- 自分の心に浮かんでくる否定的な言葉に対して、肯定的なことで反論してください。心の中で、皮肉っぽい、自分をおとしめ、辱める言葉や、怒りに満ちた冷やかな言葉、あるいは自分を絶望させ、どうしようもないと思わせるようなことをささやいているなら、それは主からの言葉ではありません。主からの言葉は常に希望や励まし、思いやりにあふれています。あなたが努力しているときは特にそうです。



幸福で健康であるための霊的なスキル

- 心から祈りましょう 天の御父に、あなたのそばに座ってくださるようお願いしましょう。心を開いて問題や望みや感謝を御父にお伝えしましょう。声に出して祈るようにしましょう。祈ったときに感じた印象を書くために、ペンと紙を用意して祈ったり、ただ感謝をお伝えするだけの祈りをささげましょう。
- 聖文を研究しましょう。問題に対する答えが得られると期待しながら、探し求めましょう。
- 今から宣教師になりましょう。専任宣教師と一緒に伝道しましょう。友達との普段の会話の中で、福音に関することが自然と話題になるように話しましょう。教会で率直に証を宣べましょう。そうすれば、伝道活動をもっと楽しんで行うことができ、熱心になれます。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

伝道中に困難を抱える二つのタイプの人

伝道中、情緒的に困難を抱える人のタイプは以下のとおりです。

- **学校で、あまり熱心に勉強する必要がなかった人** 頭がよく、才能に恵まれた人は、あまり努力することなく学業を終えてしまい、自分の才能を魔法のように捉えている場合があります。その魔法が効かなくなると（ある段階で必ずそういう時が訪れますが）、どうしたらよいか分からなくなり、自分の間違いを隠そうとします。最終的に、全ての人は謙遜になり、懸命に努力し、訓練を受け、助けを得、障害や失敗を乗り越えて、成長と改善を続けるようにならなければなりません。
- **大きな成功体験を一度もしたことがない人** 困難に遭うとき、それは自分が愚かで才能がない証拠だと考える人がいます。でも、誰であっても、何がうまくいかなかったかに注目し、分析し、創意工夫して様々な解決方法を試し、助けを得、懸命に努力し、訓練を重ねると、より賢くなり、より能力が高められます。

上記の二つのグループのどちらかに当たる人は、生まれたときからすばらしい宣教師である人は誰もいないことをいつも思い出してください。伝道のスキルを伸ばすためには、練習や、多くの熱心な勉強や働き、リスクを冒しても挑戦すること、障害を克服すること、失敗してももう一度挑戦すること、人々から学ぶこと、主に完全に頼ることが必要です。主はあなたを愛しておられ、あなた個人に与えられた使命も、専任宣教師としての伝道も果たせるように助けてくださいます。

宣教師の生活に備える

今できる伝道への備えの方法をもっと知りたい人は、小冊子『宣教師の生活に適應する』を store.lds.org、あるいはビショップを通して入手してください。



わたしたちのスペース

あなたは生活の中でモルモン書の力を感じたことがありますか。
この宣教師たちのように試してみてください。



欠けていたものを見つけました

高校生のとき、教会の一部の教義に気分を害してしまいました。そのことをきっかけに、だんだん教会に行かなくなりました。他の教会の活動に参加しましたが、喜びで心が満たされることはありませんでした。まるで何かが欠けているようでした。

欠けているものを見つけるまで時間がかかりました。しかし、ある日祈り終わって目を開けると、テーブルの上にモルモン書があるのが見えました。そのまま寝ようとする、ある思いが頭をよぎりました。「ぼくはモルモンとして生まれたのに、どうしてモルモン書を全部読んでいないのだろう。」そしてその日、モルモン書を通読しようと決意しました。

何年も探し続けた末、欠けていたものを見つけ、ついに幸福を得ることができました。■

ジェイミ・プロミス長老（フィリピン、ケソンシティー伝道部）

その書物を開く人

伝道中、いろいろな人を見てきました。酒を飲む人、たばこを吸う人、有害な薬物を使っている人でも、モルモン書を開くと、それまでの生活を捨てて、家族のもとへ、そして教会へ戻って来る姿を見ました。放蕩息子たちがこの書物を読んだ後、家に帰り、伝道に出るのを見ました。ばらばらになった家族がモルモン書を

一緒に読むようになり、その後神殿で結び固めを受けるのを見ました。深刻な問題に直面してどうしたらよいか分からなくなった人々がこの書物を開くと、いろいろなことが解決されていく様子も見ました。

わたしがモルモン書を開いて、聖句を使って誰かを助けようとする、たちまち奇跡が起きます。この書物には神の力が宿っています。人の人生を

変え、奇跡を起こす力があるのです。皆さんがモルモン書を開くたびに奇跡が起きることを約束します。もしかしたらわたしたちの望む方法やタイミングではないかもしれませんが、必ず起こります。■

ベンジャミン・バラディ長老
（フィリピン、バコロド伝道部）



魂の叫び

話し掛けてもあまり会話が
はずまないだろうと思いましたが、
怖いという気持ちもありましたが、その一方で、
話し掛けたくてたまらないという気持ちもありました。

スティーブン・ダグデール

わ たしはイタリアのカターニアで宣教師として奉仕する機会がありました。ある時期、わたしたちの伝道は壁にぶつかっていました。まるまる1週間、何をやってももうまくいかなかったのです。前向きな姿勢で臨み、笑顔を絶やさず、一生懸命働き続けることができるかどうか、日々試されていました。

ある日の夕方、わたしたちは物事の流れを変えようと決意しました。そこでアパートの近くの公園に行き、そこにいる人々に話し掛けて回りました。そのとき、たばこを口にくわえ、うつむいてベンチに座っている男性の姿が目に入りました。頭から足のつま先まで黒づくめで、ぶかぶかのジャケットのフードを頭にかぶっています。話し掛けてもあまり会話がはずまないだろうと思いましたが、わたしはこの男性に目をやりました。同僚もです。それから二人で顔を見合わせ、そしてもう一度、男性に目をやりました。

「前にあの人と話したことがあったかな」とファーリー長老が尋ねるので、

「あると思うよ。よく知っている人だと思うから」と答えました。

「そうだよ、ほくもそう思う」とファーリー長老は言います。

そこで、わたしたちはこの男性の方に足を向けました。怖いという気持ちもありました。普通、わたしはこのタイプの人には話し掛けられないからです。でも、その一方で、話し掛け

たくてたまらないという気持ちもありました。

「こんばんは、お元気ですか」と声を掛けると、

その男性は「眠りを妨げるのはどいつだ」と言わんばかりの血走った目で顔を上げると、とても穏やかに「こんばんは」と言ったのです。宣教師だと自己紹介すると、自分は無神論者で、何も信じないという言葉が即座に返ってきました。理由を尋ねると、彼はびっくりした様子でこう言うのです。

「なぜって、^{ひとつき}一月のうちに母と父、妹、そしてめいを亡くして、そのためにこれまで悲惨で孤独な人生を送ってきたからね。宗教を信じてても状況はよけいに悪くなるばかりだった。」

わたしたちは彼に、愛する人たちは今どこにいるのか知っているかと尋ねました。

「カターニア墓地。皆、ずっと前からそこに入っているよ」と答えます。

わたしたちは、霊界と復活について説明しました。今現在は、それぞれ霊と肉体から成る存在であること、死はその霊と肉体が一時的に分離する状態にすぎないことを伝えました。彼の家族は肉体を持った状態で彼と再び会い、永遠に一緒に住めるようになる日を待っているのだと伝えました。

彼はわたしたちをじっと見て、困惑しながら、こう言いました。「話していることの意味が全然分からないよ。もう一度、最初から繰り返してもらえ？」

そこでわたしたちは、同じことをもう一度全部話しました。すると彼は困惑し、眉を釣り上げながら、こう言いました。「ちょっと待って、自分は霊と肉体から成る存在ということ？そして、ほくの家族は、今、ほくを待ちながら、学んでいるということなの？」

わたしたちはアルマ書第40章や他の章から聖句を幾つか読みました。すると彼はわたしたちをじっと見て、こう尋ねたのです。「じゃあ、なぜほくは以前にこのことを一度

も聞いたことがないの?」

これほど真の意味で謙遜な人に、わたしは出会ったことがなかったと思います。この男性は、実に長い間、本当に遠方に暮れ、本当に当惑し、本当に孤独だったのです。彼はわたしたちの話を食い入るようにして聞き、聞いたことのないことばかりなのでほとんど理解できないけれども全て気に入ったと言いました。

わたしたちは祈りを通して答えを得る方法について教えました。彼は30年以上祈っておらず、子供の頃に行っていた教会で暗唱した祈りをささげたのが最後でした。御霊から答えが来ると言うので、御霊を感じるとどのような気持ちかするのかが聞いてきました。感じ方は人によって違うこともあるので、わたしたち二人がどのように感じるかを伝えました。わたしは、久しぶりに会った母親に抱き締められるような気持ちだと答えました。わたしは促しを受けて、彼もわたしと同じような気持ち、本当に長い、長い間、毎日会うことのできなかった母親から抱き締められるような気持ちを感じることができると約束しました。

一緒に祈ってもいいかと聞きました。彼はとても困惑しながら、こう尋ねました。「今? ここで、この公園で?」

「いつでも、どこでも祈りたいときに祈っていいんですよ」と答えました。「神はわたしたちの祈りを聞きたいと願っておられます。特に、あなたの祈りを聞きたいと切に願っておられます。長い間、あなたの祈りを聞いておられないのですから。」

聖人にささげる暗唱した祈り以外の祈りを聞いたことが一度もなかった彼は、どうやったら祈りがこたえられるのかを知りたいと心から思いました。

3人で頭を垂れて、同僚がこの新しい友人アルフィオのために祈りをささげ、彼に祝福と助け、そして慰めが与え

神の家族の一員

「これらの人は皆神の子供であり、あなたの兄弟姉妹です。神は、あなたを愛しているのと同じように、彼らも愛しておられます。これらの人々の多くは、人生の目的を探しています。人々は自分の家族を気にかけています。自分が神の子供であり、神の永遠の家族の一員であることを知ることによってもたらされる帰属意識を必要としています。」

『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』1

られるようお願いしました。同僚は、家族は幸福な状態にあり、神が実際に存在するという答えをアルフィオが感じられるようお願いしました。祈り終わったときに、アルフィオは驚いたような眼をしてわたしたちをじっと見つめ、こう言いました。

「言わなければならないことがあります。ぼくはうそをつくような人間ではありません。特に、今回のような場合はそうです。まるで母からしっかりと抱き締められているような気持ちを感じました。ぼくは長い、長い間、誰からも抱き締められたことがありません。とてもいい気持ちがしました。どうしたらこのような気持ちをもう一度感じることができるか教えてください。こんな気持ちをまた感じたいのです。」

「昨日の祈り以来ずっと、頭を上げて歩いています。あらゆるものを見ています。この世界は美しい。」

翌日、わたしたちはまた会いました。アルフィオは同じベンチでわたしたちの横に座り、こう言いました。「長老たち、ぼくはこれまでずっとフードをかぶり、下を向き、地面ばかり見て歩いてきました。頭を上げて歩いたことが一度もないのです。でも、昨日の祈り以来ずっと、頭を上げて歩いています。あらゆるものを見ています。この世界は美しい。」

言うまでもなく、わたしたちは続けてアルフィオに働きかけました。彼の人生に、もっと多く抱き締められ、もっと多くの光を得、もっと多く見上げる機会がもたらされるようになるためです。ベンチに座っていた強面の男性は、わたしたちを嫌うのではないかと思いましたが、実は、心の中で助けを叫び求め、天の御父の愛をもう一度感じたいと請い願っていたのです。■

筆者はアメリカ合衆国ミズーリ州在住です。





十二使徒定員会
デビッド・A・
ベドナー長老

宣教師を 助ける方法

世界中で働く専任宣教師の安全と成功のために祈ることは正しいことです。多くの人は、宣教師が回復のメッセージを受け入れる準備のできた人や家族へ導かれるように祈ります。しかし、宣教師が教える人々を見つけるのは、わたしたちの責任です。宣教師は専任で教える人であり、わたしたちは専任で見つける人です。ですから、生涯を通じての宣教師であるわたしたちは、専任宣教師がわたしたちのなすべき仕事をするように祈るべきではありません。

もしわたしたちがジョセフ・スミスのように、心から祈り、信仰をもって願い求めるなら、そしてただ願いを表すだけでなく、行動する意志をもって祈るなら、福音を宣べ伝える業は格段に前進することでしょう。そのような信仰の祈りには、次のような要素が含まれることでしょう。

- わたしたちの生活に希望と幸福

をもたらす、イエス・キリストの回復された福音の教義と儀式について、**天の御父に感謝する。**

- 口を開き、家族や友人と福音を分かち合う**勇気を**願い求める。
- わたしたちの家庭で宣教師から教えを受ける招きに応じてくれる個人や家族を見いだせるように、**天の御父に熱心に**願い求める。
- 今日一日、また今週一週間、伝道に関する**自分たちの務めを果たすことを主に約束し**、不安や恐れ、ためらいを克服できるように助けを**願い求める。**
- 伝道の機会が訪れたときにそれを逃さない目と耳を持てるように、**識別の賜物を**願い求める。
- すべきだと知っていることを実行する**強さを熱心に**願い求める。

このような祈りの中で、感謝の気持ちが表され、他の祝福が求められることもあるでしょう。そして、救い主の御名により祈り終えた後は、その祈り



に伴う献身的な努力を続けていく必要があるのです。

このような神聖な交わりと献身的な努力という方式は、貧しい人や助けを必要としている人、病人や苦しんでいる人、問題を抱えている家族や友人、教会の集会に出席していない人々のためにささげられる祈りにも当てはまります。

信仰をもって願い求め、行動するとき、祈りは意義深いものになることを証します。福音を宣べ伝えるという、神から与えられた戒めについて、信仰をもって祈るよう皆さんにお勧めします。そうするときに、門が開かれ、与えられる機会に気づいて行動する祝福にあずかれることをお約束します。■

このお話は2008年4月の総大会での説教を基に書かれました。

「両親は言葉遣いが悪く、騒がしい音楽を聞き、不適切なテレビ番組を見えています。家で、特に安息日に御霊を感じるために、わたしにはどんなことができるでしょうか。」

あなたは、バプテスマを受けたときに聖霊の賜物を授かりました。ですから環境がどうあれ、自分がふさわしくあって正しい判断を下すならば、あなたは御霊を伴侶とすることができます。

毎週聖餐を受けるときに、あなたは「いつも御子の御霊を受けられるように」「御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守る」という、天の御父と交わした聖約を思い起こします（教義と聖約 20:77）。交わした聖約を守るならば、御霊を伴侶とするにふさわしくあることができます。

聖餐会その他の教会の集会に出席することだけが、日曜日に聖約を守ることに注意を向ける方法というわけではありません。家庭での環境がどうであれ、家族歴史に取り組んだり福音を研究したり、他の人、特に孤独な人や病気の人に奉仕したりすることによって、あなたは自分の交わした聖約を守るという決意を天の御父に示すことができます。このような活動を選んでいくなれば、たとえ家族がそれをしなくても、あなたは喜びを感じるでしょう。（ラッセル・M・ネルソン「安息日は喜びの日」『リアホナ』2015年5月号、129 - 132 参照）



はっきりと言う

両親が教会員であろうとなかろうと、家で、特に安息日に常に御霊を伴侶とすることがあなた

にとってなぜ大切なのかを、両親に話してください。あなたの場合、家の中で一番静かな場所を選んで他の教会員に来てもらい、その人たちと一緒に過ごして御霊を招くことができます。安息日を聖く守るならば、主は大いに祝福してくださることをわたしは知っています。

ジョスカレス・C, 16歳
(ドミニカ共和国, サントドミンゴ)

良いことをすることに心を向ける

日曜日に家にいるのは、わたしにとってつらいことです。家で教会員はわたし一人だけで、親や兄弟たちはテレビを見たり好きな音楽を聞いたりしています。わたしは安息日を聖く守ることによって天の御父を愛していることを示したいのです。わたしは自分の部屋に行って聖文を読んだり教会の音楽を聞いたりすることができますし、友達や宣教師のところに行っておしゃべりをすることもできます。安息日を守ろうと一生懸命に努力すると主が助けてくださいますし、いつも力づけてくださいます。わたしはこのことに、とても感謝しています。

ライス・J・ジェズス・M, 19歳
(ブラジル, セルジッペ)

聖文に心を向ける

両親のしていることについて両親に話してください。聞いてもらえない場合は、家庭で御霊を感じるにはどうし

たらよいか、導きを祈り求めてください。わたしは家で御霊を感じるために聖文を読みます。そうすると、すぐに部屋が御霊で満たされます。

ブレイク・E, 14歳 (アメリカ合衆国ユタ州)



両親のために祈る

両親のために祈ってください。モルモンが書いているように、「主は、彼らのためにささげられた義人の祈りも思い出され」ます (モルモン5:21)。両親はその行動をすぐにはやめないかもしれませんが、主があなたを助けてくださるでしょう。

コール・M, 17歳
(アメリカ合衆国アリゾナ州)



教会のリソースを活用する

スマートフォンかタブレットを持っているのであれば、「モルモンチャンネル (Mormon Channel)」や「LDS Youth」のアプリをダウンロードしてください。すばらしい歌やビデオ、話が満載で、わたしはこれを視聴しているといつも御霊を感じます。簡単なことですが、わたしはこうすることで、周囲が雑音ばかりでも、本当に御霊が感じられるようになります。これは効果があり、家全体に平安が訪れます。

ハンターイブ・V, 16歳
(アメリカ合衆国テキサス州)

キリストの模範に従う

家庭が御霊に満たされるのは良い

ことですが、もっと大切なのは、人が御霊に満たされることです。キリストは、常に御霊を受けることの完全な模範であられました。さらにキリストに近い生き方をしようと努め、人に親切にし、キリストのような見方で世の中を見ることが、おそらく、どこにいても御霊を伴侶とするために一番良い方法なのでしょう。

イザベル・W, 16歳
(アメリカ合衆国オレゴン州)

家族の活動を提案する

日曜日に家族でできる活動を提案してみてもどうでしょうか。ふさわしくない行動を避けるために、家族で集まってできることを何か提案してください。家族ぐるみで何かをすれば、家族仲が良くなります。それに、日曜日にできる事柄について、家族は違った見方ができるようになるでしょう。次の日曜日が来ると家族はこう言うかもしれません。「この間は楽しかった。またやろうよ。」

ライアン・B, 19才
(アメリカ合衆国アイダホ州)



促しに従う

「この励ましの言葉を贈ります。皆さんは聖霊の影響を感じたことがあります。……」

そのような霊的な瞬間を、アルマが語った信仰の種だと考えて (アルマ32:28 参照)、一粒ずつ植えてみてください。促しに従うことが、種を植えることです。あなたにとって最も価値があるのは、神があなたに何を望んでおられるかを教えてくれる靈感です。

促しに従うにつれ、さらに頻繁に御霊の促しを受けるようになり、常に聖霊を伴侶にすることが、次第にできるようになっていきます。正しいことを選択する力が増すのです。」

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
「あなたの伴侶としての聖霊」
「リアホナ」2015年11月号, 105参照

次回の質問

「一番仲のいい友達が、神を信じないと言っています。どうすれば、その友達に福音を伝えることができるでしょうか。」

この質問への回答をお寄せください。写真を掲載してもよい場合は高解像度の写真を添えて、liahona.lds.org に投稿するか、liahona@ldschurch.org まで電子メールをお送りください。2016年7月1日必着です。郵送も受け付けています (郵送先は3ページ参照)。

電子メールまたは手紙には、次の情報と同意文を必ず明記してください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載を許可するというあなたの同意文。18歳未満の場合は保護者の同意文も必要です (電子メール可)。

掲載の際には、誌面の都合上または分かりやすい表現にするために手を加えることがあります。

良い友人

になる方法

デビッド・モラーレス

わたしたちは皆、人とのつながりを求めています。
あなたまたは他の誰かが疎外感を抱いているときに、
あなたにできることを紹介しましょう。

良い友人になる方法

仲間外れにされると傷つきますが、腹を立てたり、恨んだりしても、気分が良くなるわけではありません。代わりに、次のことを試してください。

- 教会の活動に参加する。あなたの標準を尊重してくれる人たちに囲まれて過ごす良い機会です。
- 技術を学び、伸ばす。学生協会やスポーツチーム、クラブに入ることは、共通の興味を持つ人々と親しくなるために良い方法の一つです。
- 他の人が友達になろうと言ってくるまで待ってばかりいない。こちらから自己紹介しましょう。
- 精いっぱい善い人になり、自分の標準を守り続ける。あなたの人格やあなたの発する光を認めてくれる友達が見つかります。
- 家族と時間を過ごす。最良の友達の何人かは自分の家庭の中にいることに気づくことがあります。

わたしは10代のときに教会のことを学び始めました。でも、日曜の集会に行かなくなりました。青少年の多くから冷たくされていると感じたからです。しばらくたってから、そのような青少年の一人がわたしを教会の活動に招待してくれました。わたしは行って見て、その活動が気に入りました。演劇やバスケットボール、走ることなど、自分が楽しめる活動だったからです。



続けて活動に参加しているうちに、青少年たちのことが分かるようになり、その多くが自分と同じ学校に通っていることに気づきました。やがて、わたしと同じ標準で生活している若い男性や若い女性と友情を育むことができました。わたしは教会の活動に招待してくれる人がいたことに感謝していますし、行ってみてよかったと思っています。

あなたはわたしのような気持ちを感じたことがあるでしょうか。疎外感を抱いたことや、友達の輪に入り込めないと感じたことがあるでしょうか。あるいは周りの人に受け入れられていないと感じている人や、あまり友人のいない人を見たことがあるでしょうか。学校であれ、教会であれ、その他の場所であれ、ほとんどの人は日々の生活を送る中で、そんな気持ちを感じたことがあるのではないのでしょうか。



周りの人に心を配る

「わたしたちが周りの人の考えや気持ち、状況にいつも心を配り、敏感であろうと努めるようにと願っています。人の名誉を傷つけれ

り、人をけなしたりしないようにしましょう。その代わりに、思いやり深くあって、人を元気づけましょう。」

トーマス・S・モンソン大管長
 「愛——福音の真髄」
 「リアホナ」2014年5月号, 93

周囲の人々を仲間に入れる方法

自分の都合を二の次にして周りの人と親しくするのが難しいと思えることもあるかもしれませんが、皆、神の子供であるということをおぼえれば、人を助けることがどれほど大切かが分かります。いくつかアイデアを紹介しましょう。

- 学校や教会で知らない人に話しかけ、友人に紹介する。
 - 友達を求めている人がいたら、学校や教会の活動に誘う。
 - 故意に仲間を増やさないようにしている人たちがいたら、思いやりと忍耐をもって立ち向かう。
 - 一人ぼっちの人がいたら、その隣に座ったり、自分や友人と一緒に座るよう勧めたりする。
 - どう助けたらよいか分からないときには、天の御父に祈る。御父は、どうしたらその人が幸せになるかを完璧に知っておられるので、あなたが助け手になれるよう助けてくださいます。■
- 筆者はボリビア、サンタクルス在住です。

しっかりと立つ子供たち

正義の ために 立つ

アメリカ合衆国ユタ州, エイシア・タン

こんにちは。
ぼくはエバンです。

ぼくはアイルランドに住んでいます。ハーリングというゲームをするのが好きです。これは草の上でするホッケーのようなアイルランドのスポーツです。ぼくの好きな科目は算数です。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることは、ぼくにとって祝福です。



学校でしっかりと立つ

学校に新しく来た男の子が、ぼくの妹たちをいじめました。ぼくはその間に入って、妹たちを守りました。ぼくは、知恵の言葉も守っています。学校のたくさんの生徒が、お茶やコーヒーを飲みます。ぼくは友達からお茶をすすめられるとき、「ありがとう。でも、けっこうです」と答えます。



友達といのる

ぼくはカトリックの学校に通っています。その中で、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員なのは、ぼくたちきょうだいだけです。おばあちゃんが病気になるたとき、ぼくは先生に、おばあちゃんのためにいのっていいですかと聞きました。クラス全員がうでを組んで、頭を下げました。ぼくはクラス全員の前で、声に出していのりました。

しっかりと立つための エバンからのていあん

福音の原則にしたがって生きるためには勇気が必要です。

- あきらめてはいけません。
- せいいいに耳をかたむけましょう。せいいいは、みなさんをみちびいてくださいます。
- 人々が福音を信じられるように助ければ、人々をもっと幸せにしてあげられることを覚えてください。

最高のお兄ちゃん

ぼくは正しいことをし続けるという目標を立てています。両親を助けて妹たちの面倒を見ています。妹たちがごわがるときは、ごわい気持ちをわすれられるまで、一緒に遊んであげます。両親が遠くに出かけていたときは、妹がねむるまで物語を話してあげました。

あなたの足形を送ってください！

イエスにしたがう中で、どのようにしっかりと立つことができるでしょうか。あなたの足形をなぞり、両親の許可書と一緒に、あなたの経験談と写真を送ってください。Liahona.lds.org から、“Submit an Article” をクリックするか、liahona@ldschurch.org に電子メールを送ってください。

もはんとなる

学校の友達は、ぼくが幸せなのを見ています。ののしりの言葉や主の御名をむやみに言うことをしないで、よい模範をしめしています。家族の中でももはんになることができます。





ジョーダンの聖文研究仲間

クリスティン・アイダ

本当にあったお話をもとに書かれました。

「いのりながらみ言葉読むときに、心の中に温かいみたまがあふれる」(『子供の歌集』109)

ジョーダンは、もう1年以上お姉さんのキルシと会っていませんでした。それは永遠のように思えました。お姉さんはもうすぐ、手術を受けるために伝道から家にもどってきます。ジョーダンは、キルシが病気になるのは悲しかったものの、また一緒にいられるのがうれしくてたまりません。

次の日、ジョーダンが学校から家

に帰ると、キルシはソファにすわっていました。ジョーダンは、かけよってキルシをだきしめました。

「ひさしぶりね、ジョーダン。会いたかったわ。」キルシが言いました。

ジョーダンはにっこりしました。「ほくも、会いたかったよ。病気になるちゃって残念だね。」

「ありがとう、ジョーダン。」キルシは言いました。キルシは、ひざの上にモルモン書をかかえていました。

「一緒に読んでいいかな。」ジョーダンは聞きました。

「自分のモルモン書を持って来たら。

一緒に最初から読み始められるわ。」

ジョーダンは急いで自分の部屋に行き、自分のモルモン書を手にしました。「持って来たよ。」急いで戻って来たジョーダンは大きな声で言いました。

そして、キルシのとりにすわりました。二人は、とびらのページを開きました。「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つのあかし」とジョーダンは読みました。二人は順番に読み進めました。

「伝道中はね、毎日同僚と聖文を研究したの」とキルシが言いました。そして「伝道にもどるまでの間、わたしの聖



ジョーダンは、もうキルシの聖文研究仲間ではいられなくなりました。残念でならなかったのですが、でも、素晴らしいアイデアがひらめきました。

文研究仲間になってくれないかしら。」とたずねました。

ジョーダンは「いいよ」と答えました。数日後、キルシは手術を受けました。キルシは、退院して家に帰り、2、3週間休んで病気が治るのを待ちました。キルシとジョーダンは、毎日一緒にモルモン書を研究しました。伝道地にもどる前、キルシはこう言いました。「ジョーダン、バプテスマを受ける前に、モルモン書を全部読み終えるようにあなたにチャレンジしたいと思うの。」

ジョーダンはそれについて考えました。8才の誕生日まで、もう2、3か月しかありません。たくさん読まなければなりません。ジョーダンはやりたいと思いました。「いいよ」と、ジョーダンは答えました。

「読むときに、おいのりして、それが真実かどうか聞いてみてくれるかしら。」キルシはジョーダンにそう聞いてから、言いました。「モロナイは、わ

たしたちがそうするのなら、それが真実だとせいいいが教えてくださいと約束しているわ。」

「分かった」とジョーダンは言いました。

キルシが伝道地に戻るまでの間、二人は一緒にニーファイ第二書まで読み進めました。

ジョーダンは、キルシが行ってしまって、とてもさみしくなりました。

特に、キルシの聖文研究仲間ではいられなくなりました。残念でならなかったのですが、でも、素晴らしいアイデアがひらめきました。

ジョーダンは、次の日学校で、親友のジェークのつくえのところに歩いて行きました。

「バプテスマを受けるまでに、モルモン書を全部読むつもりなんだ。ほくたち二人とも同じ日にバプテスマを受けるから、一緒にやらないかい」とジョーダンは聞きました。

「いいよ。ほく、まだモルモン書を全部読んだことがないんだ」とジェークが言いました。

毎日学校で、二人はおたがいと同じ質問を聞きました。

「どこまで読んだ？」

「ヤコブ書の終わりまでだよ。君はどこまで読んだ？」

少しして、もう質問する必要がなくなり、ただ顔を見合わせるだけで、言いたいことが分かるようになりました。

「ちょうどバプテスマに間に合うように、読み終わると思うよ」とジョーダンは言いました。

ついに、かれらのバプテスマの日が来ました。

「昨日、終わったよ」と、ジョーダンはささやきました。

「ほくもさ。」ジェークは言いました。「それに、それが本当かどうか知るためにいのったら、すごく温かくて幸せな気持ちでしたよ。」

ジョーダンはにっこりしました。「ほくもだよ。いのったとき、すごく幸せな気持ちでした。」キルシがチャレンジしてくれて本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。今、ジョーダンは、自分のあかきをきずいています。

このお話を書いた人はアメリカ合衆国バージニア州に住んでいます。



かみ 神の武器

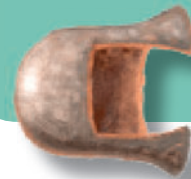
せいぶん 文はわたしたちに、神の「武器」を身に着けるように教えています（エペソ 6:11-18; 教義と聖約 27:15-18 参照）。せいぶん 聖文を研究し、いのるとき、そればまるで、自分を安全に守る武器を身に着けるのと同じです。

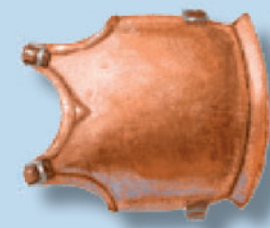
救いのかぶと

かぶとは頭を守ります。イエスがわたしたちに望んでおられることを行うとき、自分の思いを安全に守ることができま

信仰のため

イエス・キリストを信じる信仰は、わたしたちを守るためのようです。わたしたちがイエスを信じ、イエスのようになるとき、必ずかしいじょうきょうにあっても、良い選びができます。

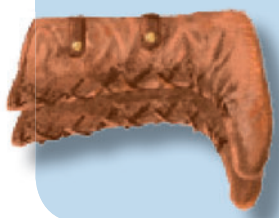




正義の胸当て
胸当ては心臓を守ります。心から神を愛するとき、わたしたちは神のいましめを守ろうと努力します。正義を選ぶとき、わたしたちは祝福されます。



真理の帯
帯は、兵士の体を守るためのベルトです。真理を知っていると、わたしたちは守られます。福音は真実であり、福音にしたがって生活することで強くなります。

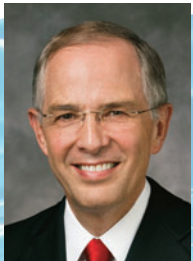


平和のそねのくつ
くつは足を守ります。イエス・キリストの足跡にならって歩もうとすると、わたしたちはいつかイエスとともに住むことができます。



みたまのつるぎ
つるぎは、間違っていることに立ち向かうときに役立つ武器です。みたまはわたしたちが悪いことや難しいことにあうとき、助けてくれます。みたまに耳をかたむけるなら、わたしたちは安全でいられます。

自分のれいを安全で幸せにたもつために、あなたは毎日どんなことができるでしょうか。



十二使徒定員会
ニール・A・
アンダーセン長老

バプテスマを受けるとき、 わたしはどのような聖約を 交わすでしょうか



わたしたちは
イエス・キリストの名前を
自分に受けて、
主の教会の会員になります。

その後、わたしたちは
毎週せいさんを受けるとき、
主を覚えると約束します。
わたしたちは主のいましめを
守ることを約束します。



わたしたちは主を信じます。
わたしたちは主を礼拝します。
わたしたちは主にしがたがいます。

「御国が来ますように」『リアホナ』2015年5月号、119 - 123 から

わたしたちの ページ

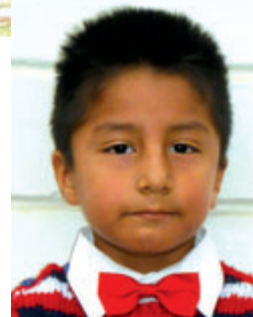


バプテスマのとき、とてもよいきもちがしました。さいしょはすこしきんちょうしましたが、水の中に入ったとき、きんちょうはなくなりました。バプテスマフォントの中でとてもまもられているとかんじました。バプテスマをうけようと自分できめたことが、ほんとうにうれしいです。わたしは、まつじつせいとイエス・キリストきょうかいがしんじつであり、生けるかみさまがいらっしゃると知っています。
ネイリアナ・V, 8才(ブラジル)



かぞくとぼくは、しんでんに行ききました。しんでんはイエス・キリストのほんとうのいえだと知っています。

ヘラム・A, 5才(ペルー)



お父さんやお母さんは、ぼくたちにしんでんについて話してくれます。しんでんのしゃしんを見せてくれて、えいえんのしゆくふくについてあかししてくれます。

トレソー・I, 7才(コンゴ)

そうぞう

ぎにかなった目的で、天のお父様はこの生き生きとした世界をそうぞうされました。

くらやみに光がもたらされ、空気や海や陸をつくられました。ゆたかなものや、変化する季節が、ますます世界を活気に満ちたものにしました。

それから、太陽や月や星がそうぞうされ、そしてわたしたちとともにあるように動物がつくられました。

この地を治めるように人がつくられました。

その後、天のお父様は休まれました。

せいなる日に、わたしたちはこのような真理をたくさん学びます。

チャンリンヤオ 張鈴曜, 10才(台湾)

エービシはせんきょうしでした

エービシのお父さんは、エービシにイエス・キリストを信じるように教えました。エービシの町には、イエスを信じる人はあまりいませんでした。アンモンがエービシのたみのもとに来て、ラモーナイ王に教えたとき、エービシは天のお父さまが自分に、人人と福音を分かち合うように望んでおられることが分かりました。エービシはついに、みんなにイエスについて話すことができました。



前に、ぼくたち かぞくは、でんどうけいかくを立てました。一人一人が、何をするつもりかをきめました。ぼくは、2年生のときの先生にモルモン書をプレゼントすることにしました。先生にモルモン書をわたすと、先生は「ありがとう、アダム。わたし、本を読むのがすきな」と言いました。かぞくででんどうけいかくをたてられて、ほんとうにうれしいです。

アダム・W, 8才 (アメリカがっしゅうこく, ユタ州)



「エービシと王妃」マーレー・D, 6才 (アメリカがっしゅうこく, ワシントンDC)



切って、おって、このチャレンジカードをもち歩きましょう。

わたしも せんきょうしに なれます!

- アルマ 19 : 36 を暗記しましょう。
- 福音について学べるように、友達を初等協会にさそいましょう。
- だれかと福音のあかしを分かち合って、あなたのあかしを強めましょう。
- わたしは自分に _____
_____ することをチャレンジします。

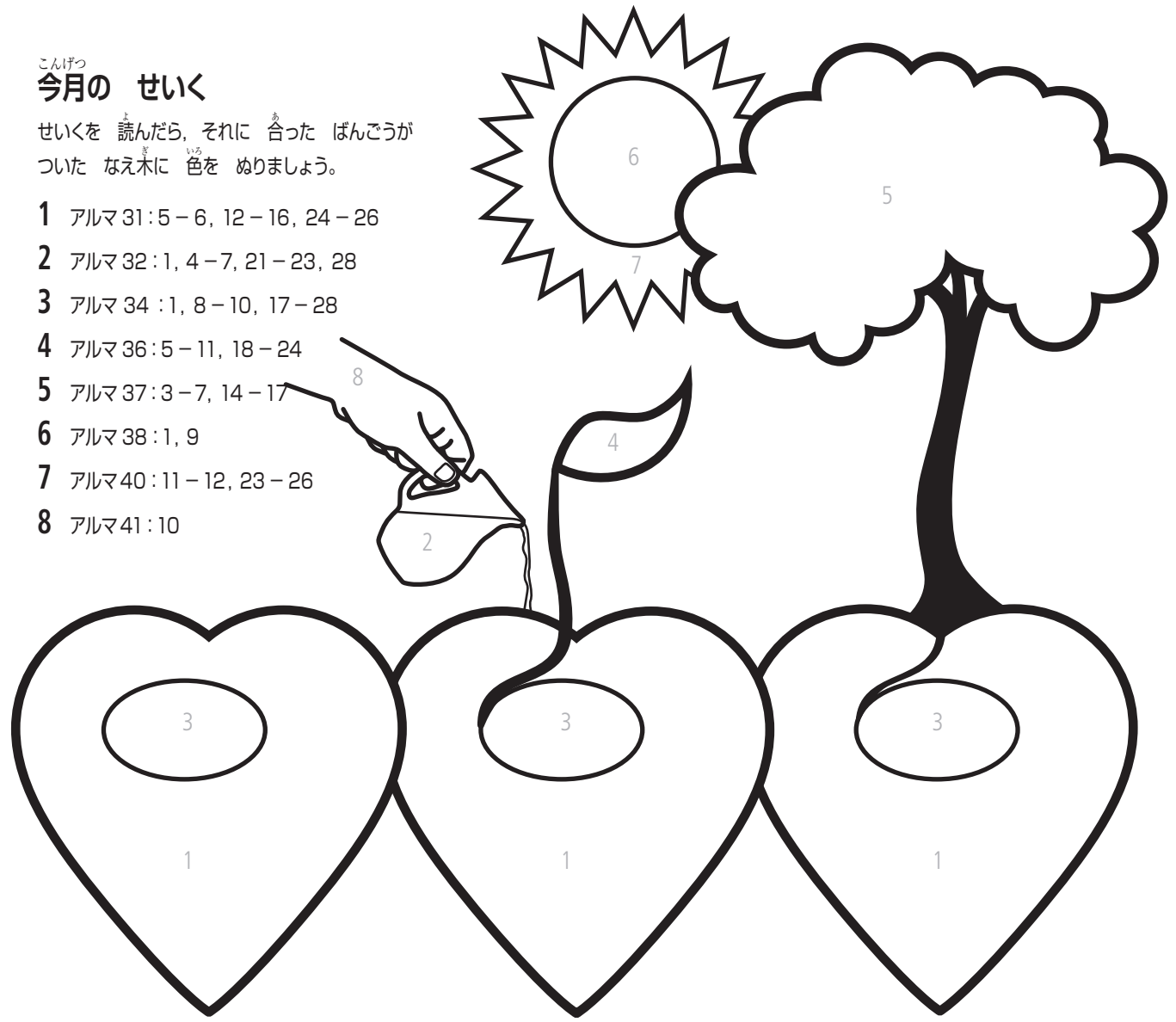
エービシ


わたしは モルモン書を 読むことが できます

今月の せいぐ

せいぐを 読んだら、それに 合った ばんごうが ついた なえ木に 色を めりましょう。

- 1 アルマ31:5-6, 12-16, 24-26
- 2 アルマ32:1, 4-7, 21-23, 28
- 3 アルマ34:1, 8-10, 17-28
- 4 アルマ36:5-11, 18-24
- 5 アルマ37:3-7, 14-17
- 6 アルマ38:1, 9
- 7 アルマ40:11-12, 23-26
- 8 アルマ41:10





しんこうが 強められる

アルマと アミュレクは、たくさんの 人人に イエス・キリストに について 教えました。二人は、しんこうの たねを うえること で 人人の せいかつを かえました。アルマたちは、せんきょうし として、かみの ことばを のべつたえました。来月の 読書チャレ ンジも 楽しみに してくださいね。■

いのりの ほうほうを ^{おし}教える アルマ



むすこ アルマは、ほかの ^{ひと}人人 ^{ひと}と ^{ひと}いっしょに ^{じん}ゾーラム人 ^{じん}に ^{おし}教えに ^い行きました。ゾーラム人は、^{まえ}前は ^{てん}天の ^{とう}お父さまを ^{いま}しんじていましたが、今は ^{いま}いませぬを ^{まも}まもっていませんでした。イエスを ^{しん}しんじていなかったのです。

また、^{ただ}正しい ^{いのり}いのりの ^{ほう}ほうも ^{おぼ}おぼえていませんでした。

ゾーラム人 ^{じん}は、^{しゆう}しゆうに ¹1ど、^{じゆん}じゆんばんに ^{いのり}いのりました。^{たか}高い ^{だい}台に ^あ上がり、^ううでを ^{たか}高く ^ああげて、^じ自分たちが、^{ほか}ほかの ^{ひと}人人 ^{ひと}よりも ^ももっと ^{とく}とくべつである^{こと}ことを、^{てん}天の ^{とう}お父さまに ^{かん}かんしゃしました。^{ぜん}ぜんいんが、^ままったく ^{おな}同じ ^{いのり}いのりを ^ししました。





ゾーラム人は、^{じん}台に ^{だい}のぼったときだけ ^いいのりました。
^{いえ}家や、ほかの ^ばばしょでは、^{てん}天の ^{とう}お父さまについて
 かんがえませんでしたし、^いいのることも ^ししませんでした。



アルマは、^{ひと}人人に ^{びと}いつでも ^いいのる
 ことが ^いできるし、^{いえ}家でも ^の野原でも
 あれのも ^いいのることが ^いできると
^{おし}教えました。何^{なに}についても ^いいのる
 ことが ^いできるし、^{てん}天の ^{とう}お父さまは
 たすけてくださると ^{おし}教えました。



わたしたちは、アルマが ^{おし}教えた ほうほうで いのることが でき
ます。いつでも どこでも いのることが できます。心の ^{なか}中で
ひそかに いのることも できるのです。天の ^{とう}お父さまは、いつ
も わたしたちの いのりを ^き聞いてくださいます。■

わたしは けいけんになることが できます





第12代大管長
スペンサー・W・
キンボール大管長
(1895 - 1985年)

あかし 証を 述べる意味と 理由と その方法

証は述べるたびに強められます。

この世にいる人は誰でも、ペテロが受けたのと同じ啓示を受けることができます〔マタイ16:13-17参照〕。その啓示とは、キリストが生きていて、この世の贖い主であられるという証であり、知識です。誰もがこの確信を受けることができます。そしてこの証を得るとき、それは研究によるだけでなく、神によってもたらされます。もちろん研究は大切な要素です。しかし研究とともに、よく祈り、求めなければなりません。その後この啓示が与えられるのです。……

もし皆さんに御霊があるならば、証会は1か月の間にワードで開かれる集会の中で最も素晴らしい集会と言えます。もし証会が退屈であるとするれば、他の人でなく皆さんに何か問題があります。立ち上がって証を述べるならば、それがその月の中で最も素晴らしい集会であると思うことでしょう。しかし、そこに座って、文法上の誤りを数え、あまり上手に話せない人のことを笑っているとすれば、退屈になり、いつか教会を離れることになるでしょう。……



毎月、大管長会と十二使徒は、神殿で全ての中央幹部と集会を開きます。皆さんと同じように、証を述べ、互いに対してどれほど愛を抱いているかを伝え合います。中央幹部に証会が必要なのはなぜでしょうか。皆さんに証会が必要なと同じ理由です。証を述べずに3か月、6か月、9か月、12か月を過ごし、なおその強さを完全に保つことができると思いませんか。

善良な会員の中には、平凡なことを言うのを恐れるあまりに、福音の中核を成すことに無関係な話に終始することで、証を述べるのを避けようとする人々があります。証について、決して平凡さを恐れてはなりません。教会の大管長は証を述べるときに、「わたしはジョセフ・スミスが神によって召された、神の代理人であったことを知っています。イエスが生ける神の子で

あり、キリストであられることを知っています」と言います。そうです、皆さんが言うのと全く同じことです。それが証なのです。……

証は勧告の言葉ではありません。証は説教ではありません（誰も人に勧告するためにその場にいるのではありません）。証は旅行談ではありません。皆さんはそこに、皆さん自身の証を述べるためにいるのです。もし証だけをするのならば、60秒、120秒、240秒、またはどのくらいの時間が与えられているにしろ、その間に証として驚くほどの事柄を述べるすることができます。わたしたちは、皆さんがどう感じているかを聞きたいのです。この業を愛していますか。本当ですか。この業のために働くことに幸せを感じていますか。主を愛していますか。教会員であることに喜びを感じていますか。

……断食集会で、そこに座ったまま、「今日は証するのをやめておこう。自分はこれまでたくさんの機会を得てきたのだから、他の会員に譲ろう」と言って、祝福を逃してはなりません。証を述べてください。1分あれば十分に述べることができます。

皆さんには証があります。もちろん、証は築き、高め、広げる必要があります。そしてこれこそ、皆さんが実行していることなのです。証は述べるたびに強められます。■

“President Kimball Speaks Out on Testimony,”
New Era, 1981年8月号, 4-7から抜粋

洞 察



**天の御父が御自身の全ての子供たちに対して抱いておられる愛を、
わたしたちはどうすれば感じることができるでしょうか。**

「人々に効果的に奉仕するには、親の目、すなわち天の御父の目を通して人々を見なければなりません。そうして初めて、人の真の価値を理解し始め、天の御父が御自身の全ての子らに対して抱いておられる愛を感じることができます。また、そうして初めて、救い主が御父の子らに対して抱いておられる思いやりに満ちた気遣いを感じ取ることができます。神の目を通して人々を見ない限り、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めるという聖約の義務を完全に果たすことはできません。」

今月号のその他の記事

ヤングアダルト



安息日の 擁護者

50
ページ

わたしたちは、安息日^{まよ}を聖く守るか、ラグビーの全米チャンピオンを目指すかを選択しなければいけませんでした。結局わたしたちは、予想以上の勝利を取めたのです。

青少年

宣教師として 最も難しいこと

52
ページ

伝道の準備は、単に聖典を学ぶ以上のことを意味します。それは同僚との働き方、拒絶へ立ち向かう方法、そして朝食・昼食・夕食とアイスクリームばかり食べるのはよくないのを知ることでもあります。



子ども



ジョーダンの 聖文研究仲間

68
ページ

ジョーダンは、数日^{すうじつ}だけでしたがお姉さん^{ねえ}の聖文研究^{せいぶんけんきゅう}仲間^{なかま}になることができてうれしく思いました。でも、お姉さん^{ねえ}が伝道^{でんどう}にもどって行ったあとはどうしたらいいのでしょうか。